

**平成19年度
緊急サポートネットワーク事業
活動状況調査結果報告書**

平成20年2月

財団法人 **女性労働協会**

はじめに

近年、労働者の仕事と育児との両立を図るために、ファミリーサポート事業が全国展開されていますが、更に子どもが病気、あるいは病気回復期にあり集団保育になじまない子どもの預かりや、急な出張等の際の宿泊を含む子どもの預かり等、専門的なニーズへの確実な対応が求められています。

そこで厚生労働省では平成 17 年度より、労働者の育児等に関する緊急のニーズに対応し、安心して育児をしながら働き続けることができる環境の整備をはかり、失業予防、雇用の安定を図ることを目的に「緊急サポートネットワーク事業」を実施しています。

財団法人女性労働協会では厚生労働省より委託を受け、緊急サポートネットワーク事業展開支援事業を行っています。

当協会では、事業が始まり 3 年目にあたり「緊急サポートネットワーク事業」の現状と課題を明らかにするために、育児の援助を行いたいスタッフ会員、育児の援助を依頼したい利用会員、並びに緊急サポートネットワーク事業実施団体を対象に「緊急サポートネットワーク事業実態調査」を実施いたしました。

調査の利用会員の自由記述では「緊急サポートネットワーク事業ができて安心して仕事ができる」「どうしても仕事を休めない時でも、子どもを看てくれる方がいるので、本当に有り難く心強いです」等「緊急サポートネットワーク事業」ができた喜びが多数寄せられています。自由記載はほぼ全員の回答者が熱心にその思いを書いてくださいました。

調査にご協力いただきました会員の皆様、各緊急サポートネットワーク事業実施団体の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

この調査結果報告書が多くの方々のご参考になれば幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、「緊急サポートネットワーク事業の実施に当たって」をご執筆いただきました庄司順一先生（青山学院大学教授）に心から御礼申し上げます。

平成 20 年 2 月

財団法人女性労働協会

目 次

はじめに	
I 調査の概要	9
II 調査結果の概要	10
1 緊急サポートネットワーク事業実施団体編	10
1 緊急サポートネットワーク事業実施団体	10
(1) 団体の概要	10
2 事業の周知	14
3 会員について	15
① 会員数、年齢	15
② スタッフ会員の中の看護師・保健師、保育士・幼稚園教諭について	17
4 活動について	17
(1) 活動内容について	17
① 病児・病後児の預かり	17
② 宿泊を伴う預かり	17
③ 緊急度の高い保育所等への送迎や預かり	17
④ その他	17
(2) 17:00以降の活動について	18
(3) 土・日・祝日の預かり	19
5 スタッフ会員の研修	20
6 マッチングの実施場所	21
① 実施場所	21
② 事務所開設時間外の対応・方法、援助依頼に対しての対応について	22
自由記述	23
【よかったこと】	23
【困ったこと】	25
【課題】	27

2	スタッフ会員編	30
(1)	スタッフ会員の概要	30
①	性別、年齢	30
②	同居の家族・子どもの年齢	31
③	仕事の有無、仕事をしている時間	32
(2)	緊急サポートネットワーク事業について	33
①	事業を知ったきっかけ、会員になった理由	33
②	会員になってからの期間・援助回数	34
③	援助活動の回数	34
④	17:00以降の預かり	36
⑤	「病児・病後児の預かり」の援助方法	37
⑥	活動に対する評価	38
	自由記述-緊急サポートネットワーク活動に対する意見・自由記載	40
	【良かったこと】	40
	【困った事】	43
	【感想】	46
3	利用会員編	50
(1)	利用会員の概要	50
①	性別、年齢	50
②	仕事の形態、勤務形態	51
③	早出や残業、土・日・祝祭日の出勤	52
④	同居している家族・子どもの数・子どもの年齢	53
⑤	緊急ネットワーク事業に登録している子どもの数・子どもの年齢	54
⑥	同居家族以外に緊急時の預かりを頼める人	55
⑦	緊急サポートネットワーク事業以外に緊急時の預かりのために登録 している場所（複数回答）	56
(2)	事業について	57
①	事業を知ったきっかけ	57
②	会員になってからの期間・依頼回数	57
③	依頼状況	58
④	17時以降の援助について	61

⑤ 事務所開設時間外の援助依頼について	61
⑥ 援助依頼のキャンセル・断られたことの有無	63
(3) 活動に対する評価	65
① 満足度、良いと思うこと、困っていること	65
自由記述－緊急サポートネットワーク活動に対する意見・自由記載	67
【よかったこと】	67
【困ったこと】	72
【感想】	75

Ⅲ 集計表	78
-------	----

Ⅳ 平成19年度緊急サポートネットワーク事業活動状況調査票

緊急サポートネットワーク事業の実施に当たって

青山学院大学教授

庄司 順一

この事業は保護者からのニーズも高いものではありませんが、病児・病後児をあずかるわけですから、何よりも慎重に、事故が起きないように、安全に実施することが不可欠です。

子どもを育てた経験があれば、子どもがしばしば病気をするものであることは分かっているでしょう。しかし、「緊急サポート」はよその子をあずかるのですから、安易に考えることはできません。善意でできることではありません。自分の子どもの場合には、体質、病気の経過、安静時の過ごし方などが分かっています。それでも子どもの状態は急変することがあります。緊急サポートであずかる場合には、その子の体質や病気の経過など、十分な情報がない中であずかることとなります。

あなたは看護師あるいは保育士の資格をお持ちかもしれません。しかし、他のスタッフとともに子どもとかかわってきた経験と、一人で子どもを見守ることとは必要とされることがまったくちがいます。子どもの状態の観察を自分の目だけで行わなければなりません。

病児と病後児の区別はできにくいものです。また、短時間であっても十分な注意が必要です。

このような困難に対処するためには2つのことが必要です。第1は「研修」です。子どもの病気、症状、薬の意味（効果やいわゆる副作用、与え方、なぜ定時に投薬する必要があるのかなどの理由など）、緊急時の対応の仕方（どんなときに、だれに、どのように連絡するのか）について基本的な知識を持たなければなりません。そのうえで、安静時の子どもの過ごし方や遊び方を理解します。自分の知識を確認し（忘れたり、自己流の考えにならないように）、新たな知識を身につけます。緊急時の対応の仕方などは、ロールプレイや実習が望ましいでしょう。第2は医療機関との連携です。病児保育室が近くにあるならば、

たいへん重要な関係機関となります。さまざまな機会に緊急サポートネットワーク事業について理解してもらうとともに、知り合っておくことが望まれます。

このほか、保護者（利用者）との信頼関係が重要なことはいうまでもないことですが、信頼関係は始めからあるものではありません。かかわりの中で生まれてくるものです。そういう点からは、定期的に利用することは少ない本事業では信頼関係の構築はむずかしい課題だともいえます。

もちろん、子どもとの関係も忘れるわけにはいきません。病児保育室の関係者にうかがった話では、保育園に通っていた子どもが病児保育室を利用した後、また病児保育室に来たいということがあるそうです。それは、そこでていねいなかかわりを経験したからでしょう。ただし、これも安全に過ごしたからこそ、といえます。

そのほか、緊急の連絡法を記した紙を電話機のそばに貼っておくことを含め、また子どもが安全に、楽しく過ごせるよう環境を整えておくことも大事です。何よりも自分を過信してはいけません。

十二分の配慮をして、ようやく子どもと利用者、そしてあなたに笑顔が浮かぶのです。

I 調査の概要

1. 目的

緊急サポートネットワーク事業における相互援助活動を把握するために実態調査を行う。

2. 調査の構成

- ①緊急サポートネットワーク事業実施団体（本部）
- ②利用会員調査
- ③スタッフ会員調査

3. 調査対象

- ①平成 18 年度末緊急サポートネットワーク事業調査団体 37 団体
- ②援助を受けた利用会員 30 名
- ③援助を行ったスタッフ会員 30 名

4. 調査方法

郵送自計による調査とする。

① 団体調査

実施団体は、団体調査票を記入後、女性労働協会へ返送する。

② スタッフ会員調査・利用会員調査

援助を受けたことがある利用会員、援助を行ったことがあるスタッフ会員の中から 30 名（実施団体、支部・再委託先合わせて 30 名。30 名満たない場合はその人数）を選定し、選定した会員へ依頼状、調査票及び返信用封筒を渡す。会員は記入後直接女性労働協会へ返送する。

5. 調査の時期

平成 19 年 6 月 30 日

6. 調査票返送期限

平成 19 年 7 月 31 日

Ⅱ 調査結果の概要

1. 緊急サポートネットワーク事業実施団体編

1 緊急サポートネットワーク事業実施団体

(1) 団体の概要

37団体の事業受託年度をみると、「平成17年度」が24団体（64.9%）、「平成18年度」が13団体（35.1%）である、

運営方法を見てみると、「本部のみ」が14団体（37.8%）、「本部+支部」が12団体（32.4%）、「本部+再委託先あり」が8団体（21.6%）「本部+再委託先+支部」2団体（5.4%）である。

図1 事業受託年度

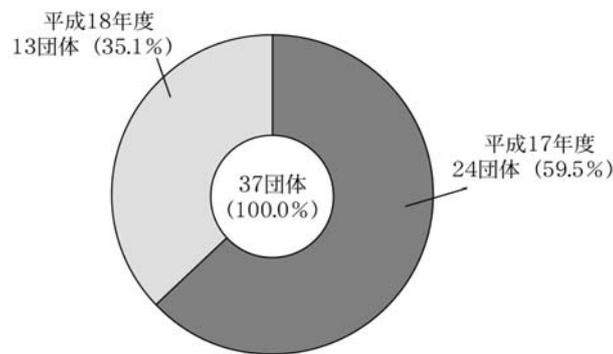


表1 運営方法

本部のみ	14 団体 (37.8%)
本部のみ+支部あり	12 団体 (32.4%)
本部のみ+再委託あり	8 団体 (21.6%)
本部のみ+再委託あり+支部あり	2 団体 (5.4%)
計	37 団体 (100.0%)

再委託先のある10団体の再委託先の箇所数は「1箇所」が4団体（40.0%）、「2箇所」が2団体（20.0%）、「3箇所」が3団体（30.0%）である。

支部のある14団体の支部の箇所数は「1箇所」が4団体（28.6%）、「2箇所」が2

団体（14.3%）、「3箇所」2団体（14.3%）である。

表2 再委託先の箇所数

1箇所	4団体（40.0%）
2箇所	2団体（20.0%）
3箇所	3団体（30.0%）
6箇所	1団体（10.0%）
計	10団体（100.0%）

表3 支部の箇所数

1箇所	4団体（28.6%）
2箇所	2団体（14.3%）
3箇所	2団体（14.3%）
4箇所	2団体（14.3%）
5箇所	1団体（7.1%）
7箇所	1団体（7.1%）
9箇所	1団体（7.1%）
10箇所以上	1団体（7.1%）
計	14団体（100.0%）

本部のアドバイザーの人数は、「1人」が22団体（59.5%）、「2人」が8団体（21.6%）、「3人」が3団体（8.1%）である。

表4 アドバイザーの人数（複数回答）

1人	22団体（59.5%）
2人	8団体（21.6%）
3人	3団体（8.1%）
6人	1団体（2.7%）
無回答・不明	3団体（8.1%）
計	37団体（100.0%）

また、アドバイザーの仕事の内容は「ネットワーク会議開催」34 団体（91.9%）「チラシ・会則等活動に必要な書類作成」「事業の周知」が 33 団体（89.2%）、「スタッフ研修会開催」32 団体（86.5%）である。

表 5 アドバイザーの仕事の内容（複数回答）

受託のための事業計画・予算作成、決算・事業報告	31 団体（83.8%）
チラシ・会則等活動に必要な書類作成	33 団体（89.2%）
事業の周知	33 団体（89.2%）
ネットワーク会議開催	34 団体（91.9%）
スタッフ研修会開催	32 団体（86.5%）
会員登録	18 団体（48.6%）
マッチング	13 団体（35.1%）
その他	12 団体（32.4%）
計	37 団体（100.0%）

本部のコーディネーターの数は「1 人」と「2 人」が共に 7 団体（18.9%）、「3 人」4 団体（10.8%）である。

表 6 コーディネーターの人数

1 人	7 団体（18.9%）
2 人	7 団体（18.9%）
3 人	4 団体（10.8%）
4 人	3 団体（8.1%）
5 人	1 団体（2.7%）
6～10 人	2 団体（5.4%）
11 人以上	1 団体（2.7%）
無回答・不明	12 団体（32.4%）
計	37 団体（100.0%）

また、コーディネーターの仕事の内容は「事業の周知」「会員登録」が共に 25 団体 (67.6%)、「スタッフ研修会開催」20 団体 (54.1%) である。

表7 コーディネーターの仕事の内容（複数回答）

チラシ・会則等相互援助活動に必要な書類作成	19 団体 (51.4%)
事業の周知	25 団体 (67.6%)
ネットワーク会議開催	11 団体 (29.7%)
スタッフ研修会開催	20 団体 (54.1%)
会員登録	25 団体 (67.6%)
マッチング	24 団体 (64.9%)
その他	11 団体 (29.7%)
無回答・不明	2 団体 (5.4%)
計	37 団体 (100.0%)

2 事業の周知

会員獲得のため広報をした場所をみると「自治体の子育て支援課等」37 団体（100.0%）と全団体が実施している。「ファミリー・サポート・センター」「保育園・幼稚園」は共に 34 団体（91.9%）、「群市区社会福祉協議会」は 32 団体（86.5%）となっている。

表 8 会員獲得のため広報をした場所（複数回答）

自治体の子育て支援課等	37 団体（100.0%）
郡市区社会福祉協議会	32 団体（86.5%）
ファミリー・サポート・センター	34 団体（91.9%）
保育園・幼稚園	34 団体（91.9%）
小学校	16 団体（43.2%）
放課後児童クラブ	24 団体（64.9%）
企業・事業所	25 団体（67.6%）
保健所（6ヶ月健診等）	22 団体（59.5%）
ハローワーク・マザーズハローワーク	27 団体（73.0%）
病児保育室	24 団体（64.9%）
地域の活動団体	30 団体（81.1%）
その他	28 団体（75.7%）
計	37 団体（100.0%）

3 会員について

① 会員数、年齢

平成 19 年 6 月末現在の総会員数は、11,403 人で、利用会員 7,191 人、スタッフ会員 3,960 人で利用会員はスタッフ会員の約 2 倍である。両方会員は 252 人となっている。

表 9 事業開始年度別会員数（合計）

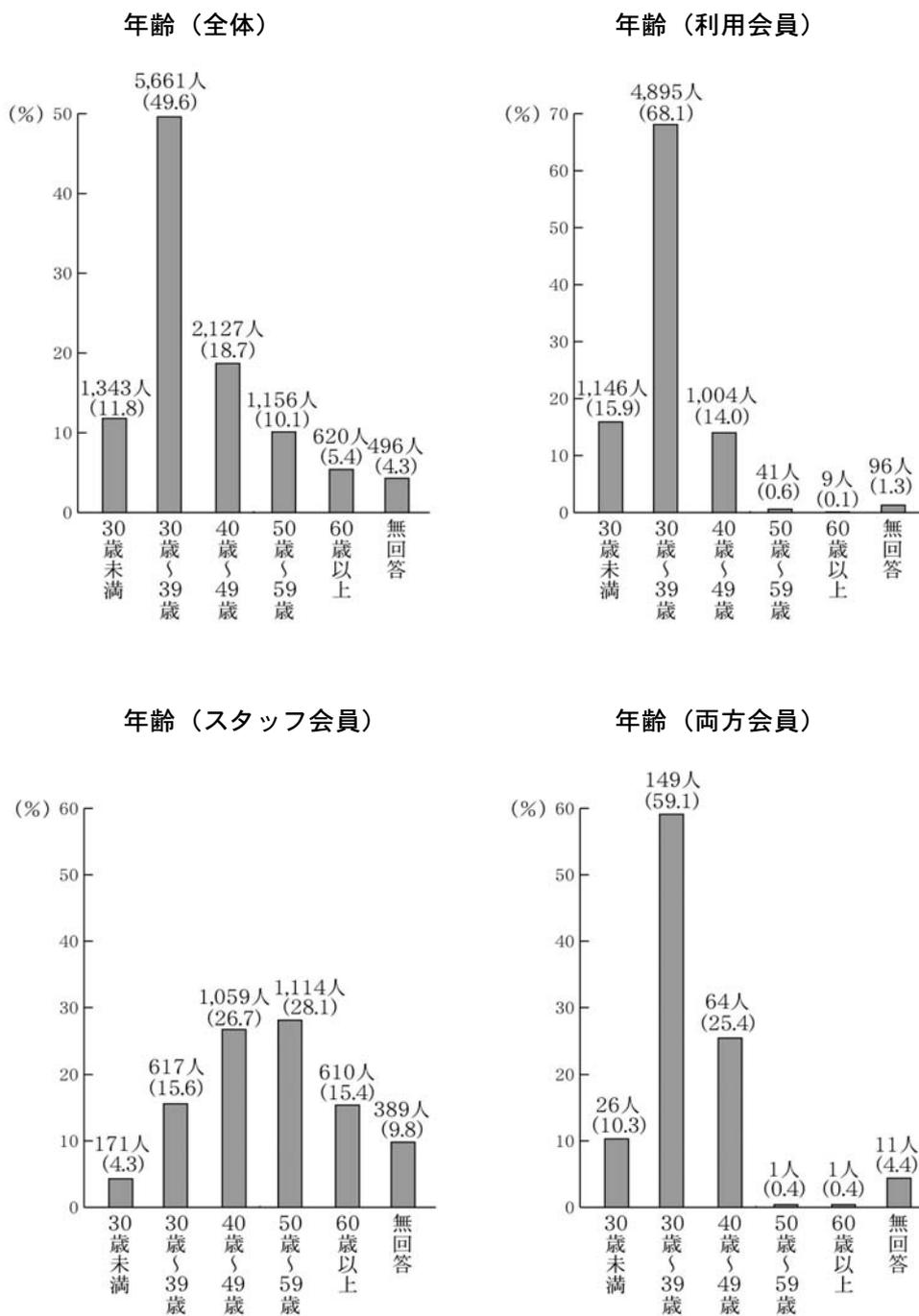
	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年 6 月末現在
利用会員	3,050 人 (70.6%)	5,970 人 (61.5%)	7,191 人 (63.1%)
スタッフ会員	1,221 人 (28.2%)	3,516 人 (36.2%)	3,960 人 (34.7%)
両方会員	52 人 (1.2%)	215 人 (2.2%)	252 人 (2.2%)
計	4,323 人 (100.0%)	9,701 人 (100.0%)	11,403 人 (100.0%)

利用会員の年齢は、「30 歳代」が圧倒的に多く 4,895 人 (68.1%)、「30 歳未満」が 1,146 人 (15.9%)、「40 歳代」は 1,004 人 (14.0%) である。

スタッフ会員の年齢を調べてみると、「50 歳代」が一番多く 1,114 人 (28.1%)、次いで「40 歳代」が 1,059 人 (26.7%) 「30 歳代」が 617 人 (15.6%)、「60 歳以上」610 人 (15.4%) となっている。

両方会員は「30 歳代」が 149 人 (59.1%)、「40 歳代」が 64 人 (25.4%) である。

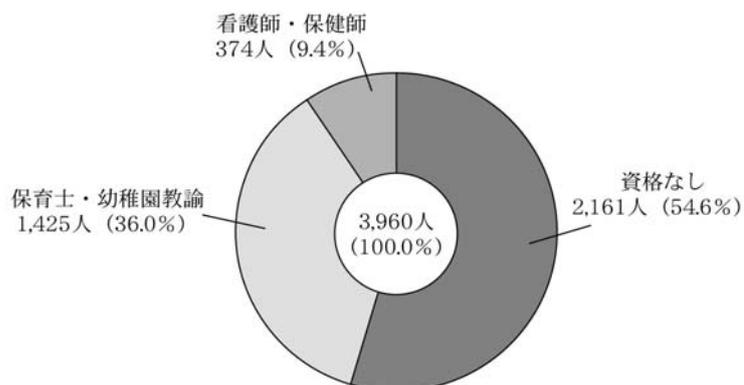
図2 会員の年齢 棒グラフ



② スタッフ会員の中の看護師・保健師、保育士・幼稚園教諭について

スタッフ会員の中で「看護師・保健師」の資格を持っている人の登録をみると 374 人 (9.4%)、「保育士・幼稚園教諭」1,425 人 (36.0%) となっている。

図 3 スタッフ会員の中の看護師・保健師、保育士・幼稚園教諭の数について



4 活動について

(1) 活動内容について

平成 19 年 4 月～6 月の活動件数合計は 3,273 件で、その内事務所開設時間外の依頼の活動であったのは 990 件 (30.2%) で柔軟に対応している。項目別に見ると次のとおりである。

① 病児・病後児の預かり

活動の件数は 1,083 件 (33.1%) で、その内事務所開設時間外の依頼の活動であったのは 226 件である。

② 宿泊を伴う預かり

活動の件数は 154 件 (4.7%) で、その内事務所開設時間外の依頼であったのは 55 件である。

③ 緊急度の高い保育所等への送迎や預かり

活動の件数は 1,181 件 (36.1%) で、その内開設時間外の依頼であったのは 392 件である。

④ その他

活動の件数は 855 件 (26.1%) で、その内開設時間外の依頼であったのは 306 件である。

表 10 平成 19 年 4 ～ 6 月までの活動件数

	平成 19 年 4 月～6 月 までの活動件数	開設時間外の依頼の 活動件数
病児・病後児の預かり	1,083 件 (33.1%)	226 件 (22.8%)
宿泊を伴う預かり	154 件 (4.7%)	55 件 (5.6%)
緊急度の高い保育所等への送迎や預かり	1,181 件 (36.1%)	392 件 (39.6%)
その他	855 件 (26.1%)	317 件 (32.0%)
計	3,273 件 (100.0%)	990 件 (100.0%)

(2) 17:00 以降の活動について

平成 19 年 4 月～6 月の活動 (3,273 件) のなかで、17:00 以降も続けて活動があったかをみると「ある」が 30 団体 (81.1%) であった。

表 11 4～6 月までの活動で 17 時以降の活動の有無

ある	30 団体 (81.1%)
ない	3 団体 (8.1%)
無回答・不明	4 団体 (10.8%)
計	37 団体 (100.0%)

また、その合計活動件数は 1,416 件 (43.3%) で、その内訳をみると「18:00 まで」470 件 (33.2%)、「19:00 まで」349 件 (24.7%) である「20:00 まで」241 件 (17.0%) である。

表 12 4～6 月までの活動で 17 時以降の活動件数

18:00 までの間	470 件 (33.2%)
19:00 までの間	349 件 (24.7%)
20:00 までの間	241 件 (17.0%)
21:00 までの間	149 件 (10.5%)
21:00 以降	207 件 (14.6%)
計	1,416 件 (100.0%)

(3) 土・日・祝日の預かり

平成19年4月～6月の活動の中で、土・日・祝日の預かりをみると「ある」が25団体(67.6%)でその活動件数は25件であった。またその内訳は活動が「1回」であったのが3団体(12.0%)、「2回」であったのが4団体(16.0%)となっている。

図4 4～6月までの活動で土・日・祝日の援助の有無

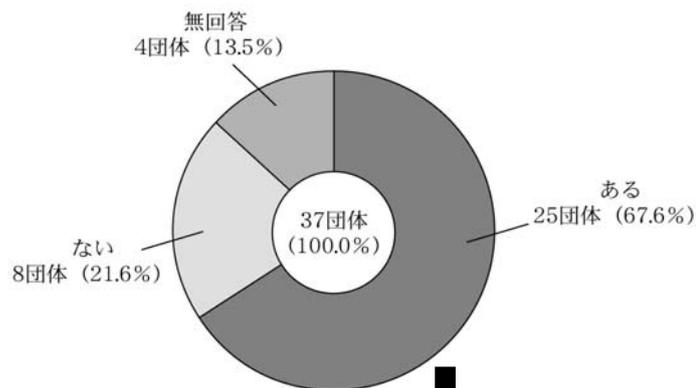


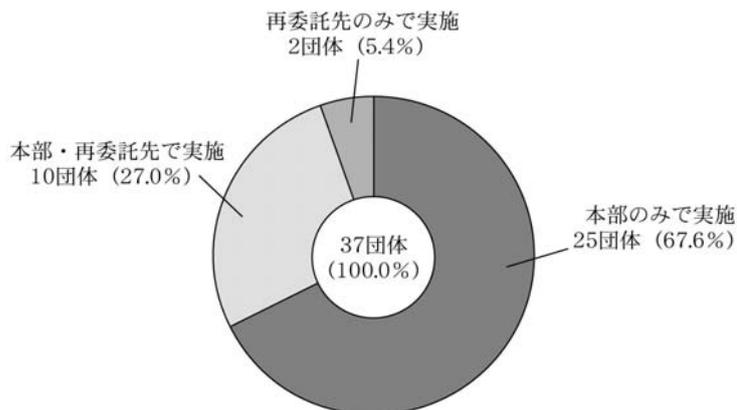
表13 土・日・祝日の援助件数

1回	3団体 (12.0%)
2回	4団体 (16.0%)
3回	1団体 (4.0%)
4～5回	2団体 (8.0%)
6～10回	6団体 (24.0%)
11～20回	4団体 (16.0%)
21回以上	4団体 (16.0%)
無回答・不明	1団体 (4.0%)
計	25団体 (100.0%)

5 スタッフ会員の研修

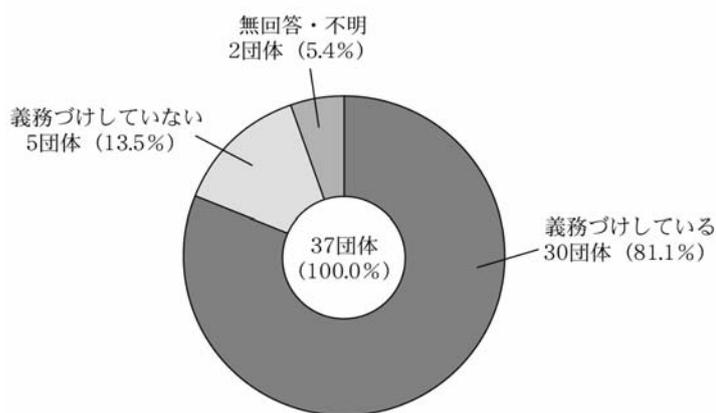
- ① 都道府県内のスタッフ研修会の実施主体をみると、「本部のみで実施」が 25 団体（67.6%）、「本部・再委託先で実施」は 10 団体（27.0%）である。

図 5-1 都道府県内の研修実施



- ② 看護師・保育士等の資格を持っている人の研修は「義務づけている」が 30 団体（81.1%）となっている。

図 5-2 看護師・保育士に対し研修受講の義務

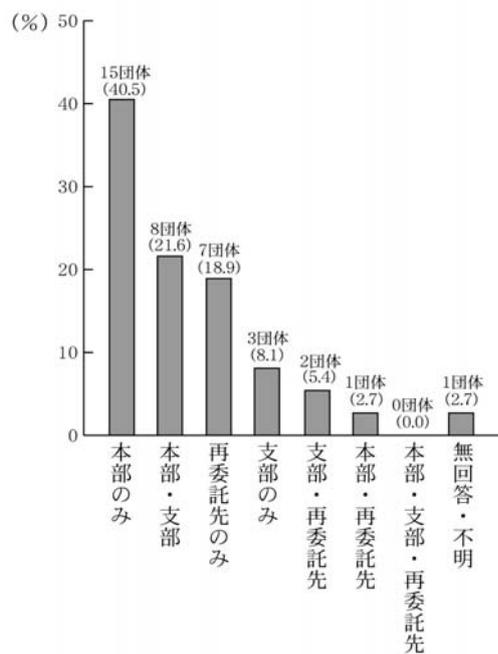


6 マッチングの実施場所

①実施場所

相互援助をするためにマッチングする場所は「本部のみ」が15団体（40.5%）、「本部+支部」が8団体（21.6%）、「再委託先のみ」は7団体（18.9%）である。

図6 マッチングの実施場所



②事務所開設時間外の対応・方法、援助依頼に対する対応について

本部でマッチングしている 24 団体についての対応は、以下のとおりである。

事務所開設時間外の対応は 24 団体すべて柔軟に対応している。その方法は、「転送電話でアドバイザー・コーディネーターの携帯電話につながる」16 団体（66.7%）、「会員のみにアドバイザー・コーディネーターの携帯番号を教えている」8 団体（33.3%）「会員間で対応できるものはしている」6 団体（25.0%）である。

表 14 開設時間外の対応状況

転送電話でアドバイザー・コーディネーターの携帯電話につながる	16 団体 (66.7%)
会員のみにアドバイザー・コーディネーターの携帯番号を教えている	8 団体 (33.3%)
会員間で対応できるものはしている	6 団体 (25.0%)
その他	6 団体 (25.0%)
計	24 団体 (100.0%)

また、利用会員の依頼に対して、どのような方法で対応しているかは、「依頼があると、アドバイザー・コーディネーターはあらかじめ事前打ち合わせをすませているスタッフ会員に連絡する」が 17 団体（70.8%）、「利用会員は援助を求めたい時、あらかじめ事前打ち合わせをしているスタッフ会員に直接連絡し、活動が決まってから会員から団体へ報告する」が 11 団体（45.8%）である。

表 15 利用会員の依頼に対する実施状況（複数回答）

依頼の都度アドバイザー等が依頼内容を聞き取りスタッフ会員を紹介する	7 団体 (29.2%)
依頼があると、アドバイザー・コーディネーターはあらかじめ事前打ち合わせをすませているスタッフ会員に連絡する	17 団体 (70.8%)
利用会員は援助を求めたい時、あらかじめ事前打ち合わせをしているスタッフ会員に直接連絡し、活動が決まってから会員から団体へ報告する	11 団体 (45.8%)
その他	1 団体 (4.2%)
計	24 団体 (100.0%)

自由記述

緊急サポートネットワーク事業を進めていく中で良かったこと、困ったこと、問題点などを自由に記述していただいたところ、殆どの団体から声が寄せられた。

【よかったこと】

緊急サポートネットワーク事業を利用した会員から感謝されたり、事業を進めていく中で子育て関係の団体との連携がとれたことや、団体本体の事業の活動が広がった喜びが多かった。

＜利用者から感謝されること、スタッフ会員の喜びを感じられること＞

- ・働いている利用者から、仕事を続けられて助かったと喜ばれること
- ・利用後にこの事業のお陰で仕事を休まなくてすみ助かったという利用会員の声が多く聞かれる
- ・利用会員に登録した事で働いている上で子どもが病気になった時、預けて見てもらえるという安心感を得られてというお話をいただいた時
- ・お願い会員さんから「おかげで安心して働けます」「大変助かりました」と喜ばれること
- ・利用者から「助かった」という声を聞いたこと
- ・利用会員から本当に助かりましたと感謝の声があった時、事業を進めて良かったと感じ
- ・「とても助かりました」と感謝されサポートが会員の就業継続の一助になっている。
- ・労働者に感謝されること
- ・就職時に役立ったと利用者から報告を受けたこと
- ・利用できてよかったという声と、職場の人にも教えてあげたいとっていただいたこと
- ・利用についての問い合わせも多く、本事業を紹介することにより、助かった方が多くいること
- ・利用会員の「満足した」という声が多いこと
- ・サポートスタッフが活動する前には心配している様子があったが、実際にサポートをすることにより「役に立ってうれしい」「子どもとかかわることができてうれしい」というように喜びにかわっている

＜子育て関連の他団体とのネットワークがとれたこと＞

- ・事業を通じ、事業実施地区の行政・子育て支援課に関わる団体とのつながりができた
- ・県内において子育てに関する様々な機関や団体とつながることができた。情報を共有したり交換することで県内全体の姿を捉えることができた。
- ・行政や他機関とのネットワーク・人脈が広がった
- ・厚生労働省の事業なので、いろいろな関係機関との協力を得やすく、運営団体の知名度も上がった。
- ・ネットワーク会議や研修会、周知広報を通じて子育て関連の各機関・団体をはじめ企業・経営側との情報交換ができた
- ・医療機関やネットワーク会議の参加者がこの事業を通して良い関係性を構築しており、お互いが相談できる関係になっている。
- ・ファミリーサポートセンターや子育て支援センター等との連携により、各コーディネーターへの助言や支援を行うようになってきている。各事業への理解も深まりつつあり、地域の中の役割分担への合意形成への動きにつなげていけそうである。
- ・医療機関・教育機関・労働機関等との連携で子育て支援活動の幅が広がった
- ・保育園が実施する地域子育て支援活動の一環となっている
- ・利用は増加傾向で、事業が定着、回転しだしたこと。都内で個別に活動していた病児保育関連NPO団体等、都病児保育施設事業との情報交換を行い、それぞれの事業実施状況、課題点等の理解が深まった
- ・ファミリー・サポート・センター（8箇所）とつなぐ役割ができた。

＜研修会について＞

- ・研修会に興味のある方が多くキャンセルまちが出るほどの人気である
- ・研修会の講師がとてもよかったと言われている。
- ・会員養成講座では受講者の熱意と意欲にふれることができ、活動への知識を身につけたり動機付けになっている様子がうかがえた
- ・始めは研修時間が3時間程度だったが、今回初めて10時間程度の研修を開催することができたこと
- ・スタッフ会員養成講座には重点地域の近隣市町村から活動お越しを目指して参加するリーダー層も複数おり、今後の拡大が期待できる。

＜団体の活動の広がり等につて＞

- ・ネットワークが広がり事業や団体の活動を知ってもらえたこと
- ・団体としての活動範囲が広がったこと
- ・団体としての子育て支援力や知名度が高まった
- ・今まで自主的に行ってきた事業を安全面から見直しができたこと、特に研修費用が公費でまかなえるようになったことが大変良かった
- ・子育てをしながら働いている人が望んでいる多岐の支援内容を直接知ることができ、子育て支援に対する視野が広がった。
- ・利用会員への半額補助制度の設立ができたこと
- ・厚生労働省の事業なので、いろいろな関係機関との協力を得やすく、運営団体の知名度も上がった。
- ・仕事と子育ての両立に不安を抱えながら生活している。緊急時にこのような支援事業が身近にあることで安心感をもって仕事と育児にがんばれることがよい。現代の仕事をもつ女性の働き方を支援者世代に伝え理解をしてもらえている。

【困ったこと】

病児・病後児の子どもを預かってくれるスタッフ会員の確保の困難さが困ったことの中で最も多く、次いで利用会員の緊急サポートネットワーク事業についての理解不足についてがあがった。

＜スタッフ会員の確保等について＞

- ・お願い会員の増加に比べまかせて会員がなかなか増えない
- ・県単位の事業でありながら、内容は極めて地域的密着性が高く、スタッフ会員の確保が困難。「病児預かり」でスタッフ会員を募るとそれだけで敬遠される。
- ・夕方から夜間の支援者が少ない。支援者宅の家族全員の理解を深めること、夜間対応者をふやすことが必要。インフルエンザの子どもを預かる時、支援者の体調管理をどのようにキープしておくかがむづかしい
- ・会員募集するが思うように集まらない。平日のサポートは受けてもらえても土・日となると受けてくれる人がいない。
- ・周知広報してもなかなか会員が集められない。特にサポート会員があつまりにくい
- ・スタッフ会員の少ない又はいない地域に利用会員の申し込みがあり、近隣の方をす

ぐに紹介出来ないこと

- ・スタッフがいない市町村の利用者からサポートの依頼があったが、対応ができなかった
- ・スタッフ会員に嘔吐・下痢がうつってしまった。

＜利用会員に対する悩み＞

- ・利用会員登録をされていない状態でのサポート依頼を打診されてきた時
- ・子どもの状態が悪いのに預けて言うてしまう人がいること（母親の話と食い違いがある）
- ・子どもの状態が悪くなくても帰れないと言われること
- ・当日のキャンセルが多く、準備していたがまかせて会員に申し訳ない
- ・お願い会員の中にサポート方針や提出書類について理解・協力が難しい方がいる
- ・1度だけ、料金の不払いがあった。スタッフ会員には団体が立て替えて支払った。その後連絡をとっているが、まだ入金されていない。何度もこのようなことがあると団体でも負担できなくなるが、スタッフ会員に迷惑かけられず、どうしたらよいかと思う。

＜事業を進めていくのに困ったこと＞

- ・再委託先である団体とその周辺地域外に在住の方について、この事業を利用できない点
- ・会員から金銭面での相談があっても、現状では補助体制がない
- ・類似した事業の研修が多いこと。又各自治体の社会資源の格差（病後児保育室の有無等）
- ・病児を預かることへの反対意見。
- ・「病気時に子どもを預けるなんてどんな親なの」という批判がある
- ・保健センターの検診時に説明する場を提供してもらえなかった
- ・県全域は広く自治体によって対応に温度差がある

【課題】

困ったこと以上にスタッフ会員の確保・事業の周知が課題であるとしているところが多い。また、他の子育て関連の機関との連携や事業の棲み分けについてや、広域の事業であることから事業の展開・拡大をどのようにするかを課題としている団体が多かった。

<会員の確保等・事業の広報について>

- ・有資格者のサポート会員の確保
- ・サポート会員の増員と活動内容を広げてもらうための教育
- ・病気の時限定のまかせて会員なので、講習時間は長く、援助は少ないので、ファミサポと連携を図って行くこと
- ・早朝、夜間を含め対応可能な人員の増
- ・講習会の人数集め、周知広報、知名度
- ・会員登録の増加について。特にお願い会員の増加
- ・利用会員とサポートスタッフの需要と供給の要望が一致しない。ニーズのあるところでサポートスタッフを増やすことが課題である。
- ・スタッフ会員、利用会員の増加をはかり各地域に相応の活動が行われるようにする事が今後の課題である
- ・利用会員の登録数の割に、利用が伸びていないのもう少し、周知広報を強化したい
- ・県全域が対象となっているが、サポート会員がいない地域もありその確保
反対にサポート会員がいるのに利用会員がいない地域
- ・スタッフの確保と継続への呼びかけ、モチベーション維持
- ・保育園等事業者に説明し、チラシを置いてもらえても、登録や利用にいたるまでがむつかしい。
- ・会員確保、周知広報について
- ・周知広報する際、核となる団体の掘り起こし
- ・子育て中の働く母親への理解が不十分であること
- ・利用会員に対して登録の更新の確認をした際に積極的な登録継続の意志を示す方とそうでない方がおり、利用会員に対しても必要性や使いたくなるような意識をもち続けてもらえること

<研修会について>

- ・コーディネーター、アドバイザーの研修の機会をもち、資質の向上を図ること
- ・件数増加のなかでは、保育中のヒヤリ・ハット事例等も発生していて、早急に都全体でケースを共有するシステムづくりが求められると共に、追研修や広報等でリスクマネジメント意識を組織レベル、会員レベル双方で高めていきたい
- ・事業実施地域が広がっていく中におけるフォローアップ研修や新規会員養成研修の持ち方
- ・研修内容をバージョンアップさせていきたい。今回は研修会、交流会共に1つの地域での開催だが、今後は何カ所かで開催できればと思っている。
- ・研修をどのように効果的で充実したものにしていくか。
サポーターの登録者をどう増やすか。また登録後のフォローアップをどうするか。

<他団体との連携・棲み分けについて>

- ・行政サービス（ファミサポ）との連携・協同体制。
- ・ファミリー・サポート・センターとの棲み分けができていない
- ・ファミリーサポート事業のサービス枠が広く取り組んでいる地域では、緊急サポートの新規性が明確にならず、現在把握できていない、対応できていないニーズを再度洗い出している。
- ・ファミサポとの関わり方や、本事業との棲み分けがうまくいかずまだ苦戦している。
ファミサポが要綱に載せていない部分も行っている時もあるので、そういった部分をもう少し整理したいが、うまくいっていない
- ・緊急とファミサポの両方に登録しているサポート会員と利用会員の場合、軽い病児の場合当事者同士でファミリーの活動として扱われ、報告がこないこと（料金のことがあるので）。
- ・個人的に理解を示してくださっている小児科医は増えているが、まだ反対されている方もいるので、小児医会などとの関係づくりはまだ行っていない。今後の課題である。

<事業の拡大・運営について>

- ・現在実施している地区以外にも拡張したいが、積極的に取り組んでいける団体、又はキーマンがいない
- ・事業実施地域の拡大

- ・ 病児をも含んだ新たな事業領域の拡大について
- ・ 母子家庭など社会的弱者に対する費用の考慮。
- ・ 援助活動の報酬の設定の仕方が利用会員のニーズにあっているか？利用会員の確保に影響があるか。
- ・ 各都道府県に1つの団体なので、全体を視野に入れた事業展開を考えなければならないが、広い地域なので郡部はまだ手つかずの状態であり、研修の方法を含め限られた予算の中で新しい地域で事業を広げていくことが課題となっている。
- ・ 本事業のサービスにかかる地域格差の解消に向けた今後の取り組み
- ・ ファミリーサポートセンターのない地域があるので対応を考える必要がある。
- ・ ネットワークの拡大・構築・・・より多くの機関や人々への広報・全県下へのネットワーク
- ・ 利用料の見直しを含め、利用会員の方々が利用しやすい方法の検討をする必要がある

2. スタッフ会員編

スタッフ会員の調査は、各団体毎にそれぞれ活動している 30 人のスタッフ会員を抽出してもらい、合計 810 人に調査の回答を依頼した。有効回答数は 550 人、回収率は 67.9%であった。

(1) スタッフ会員の概要

① 性別、年齢

550 人の男女別内訳をみると、「女性」が 537 人 (97.6%)、「男性」が 11 人 (2.0%)である。

年齢別にみると「50 歳代」が 184 人 (33.5%) と一番多く、次いで「40 歳代」が 156 人 (28.4%)、「60 歳代」が 112 人 (20.4%) の順になっている。

図 1 性別

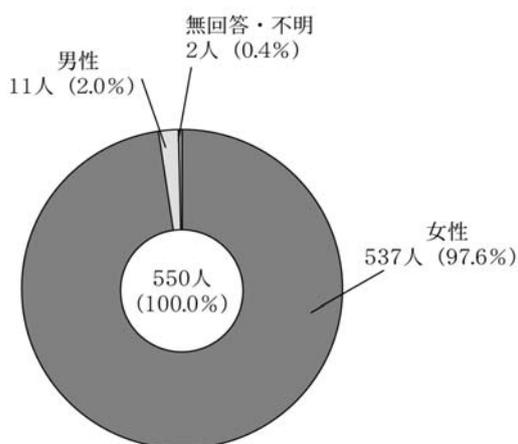
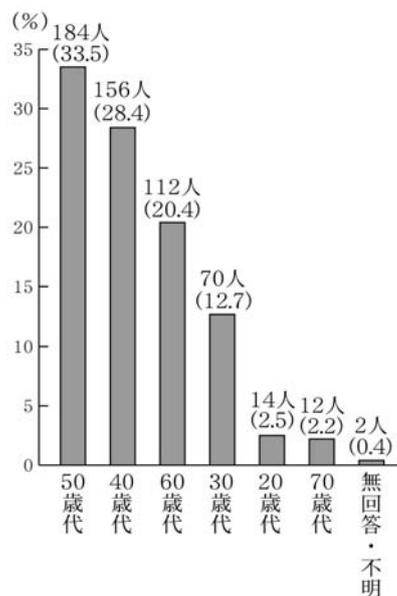


図 2 年齢



② 同居の家族・子どもの年齢

同居している家族は、「配偶者+子ども」が225人（40.9%）、次いで「配偶者のみ」が111人（20.2%）となっている。同居している子どもの年齢をみると「中学生以上」が234人（61.6%）、次いで「中学生以上+小学生」は47人（12.4%）となっている。

表1 同居している家族

配偶者	111人（20.2%）
配偶者+子ども	225人（40.9%）
配偶者+親+子ども	83人（15.1%）
親+子ども	7人（1.3%）
子ども	51人（9.3%）
親	10人（1.8%）
その他	37人（6.7%）
同居の家族はいない	25人（4.5%）
無回答・不明	1人（0.2%）
計	550人（100.0%）

表2 子どもの年齢

中学生以上	234人（61.6%）
中学生以上+小学生	47人（12.4%）
小学生	38人（10.0%）
小学生+就学前	24人（6.3%）
就学前	25人（6.6%）
中学生以上+就学前	5人（1.3%）
中学生以上+小学生+就学前	6人（1.6%）
無回答・不明	1人（0.3%）
計	380人（100.0%）

③ 仕事の有無、仕事をしている時間

スタッフ会員としての援助活動以外の仕事をしているかどうかについてみると、仕事「あり」と答えた人は369人(67.1%)、仕事「なし」の181人(32.9%)の倍の人が仕事を持ちながら援助活動をしている。仕事をしている時間についてみると、週「10時間まで」が146人(39.6%)、「10時間～20時間」は83人(22.5%)となっている。

図3 仕事の有無

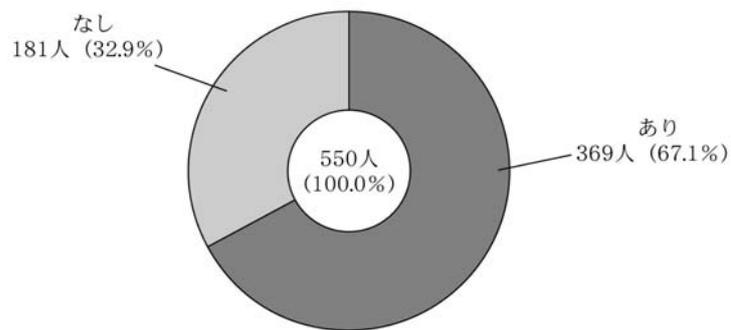


表3 仕事をしている時間

10時間まで	146人(39.6%)
10時間以上～20時間未満	83人(22.5%)
20時間以上～30時間未満	65人(17.6%)
30時間以上～40時間未満	34人(9.2%)
40時間以上	41人(11.1%)
計	369人(100.0%)

(2) 緊急サポートネットワーク事業について

① 事業を知ったきっかけ、会員になった理由

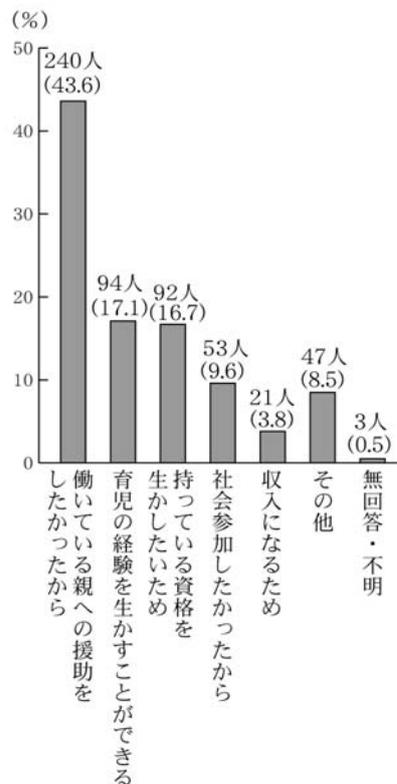
緊急サポートネットワークの事業を知ったきっかけは、「ファミリー・サポート・センター」が169人(30.7%)、「友人・知人の口コミ」が118人(21.5%)となっている。

また、スタッフ会員になった理由については、「働いている親への援助をしたかったから」が240人(43.6%)、「育児の経験を生かすことができる」が94人(17.1%)、「持っている資格を生かしたいため」が92人(16.7%)となっている。

表4 緊急サポートネットワーク事業を知ったきっかけ

ファミリー・サポート・センター	169人(30.7%)
友人・知人の口コミ	118人(21.5%)
ポスター・チラシ	88人(16.0%)
テレビ・新聞・雑誌	87人(15.8%)
その他	86人(15.6%)
無回答・不明	2人(0.4%)
計	550人(100.0%)

図4 スタッフ会員になった理由



② 会員になってからの期間・援助回数

会員になってからの期間は、「6ヶ月～1年以内」が162人（29.5%）、「1年以上～1年6ヶ月以内」が152人（27.6%）とほぼ同数でついで「1年6ヶ月以上」が107人（19.5%）となっている。

また、会員になってからの援助回数は「1年6ヶ月以上」2,433回、「1年以上～1年6ヶ月以内」2,162回である。

表5 会員になってからの期間・援助回数

	人数	援助回数
3ヶ月以内	51人（9.3%）	90回（1.4%）
3～6ヶ月以内	77人（14.0%）	560回（8.7%）
6ヶ月～1年以内	162人（29.5%）	1,179回（18.4%）
1年～1年6ヶ月以内	152人（27.6%）	2,162回（33.7%）
1年6ヶ月以上	107人（19.5%）	2,433回（37.9%）
無回答・不明	1人（0.2%）	0回（0.0%）
計	550人（100.0%）	6,424回（100.0%）

③ 援助活動の回数

会員になってから援助した人の数は550人で、合計援助回数は6,424件である。項目別にみると次のとおりである。

1 「病児・病後児の預かり」

会員になってから「病児・病後児の預かり」を行った人は295人（53.6%）、その内土・日・祝日の預かりを行った人は64人である。また援助回数の合計は1,797回、その内土・日・祝日の預かりは135回である。またその内訳をみると1人あたりの援助回数は「1回」が74人（25.1%）、「2回」は50人（16.9%）である。

表6 病児・病後児の預かり

	人数・回数	（土・日・祝日）
援助を行った人数（土・日・祝日）	295人（53.6%）	（64人）
援助を行った回数（土・日・祝日）	1,797回（28.0%）	（135回）

表7 1人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1回」	74人 (25.1%)	33人 (51.6%)
「2回」	50人 (16.9%)	15人 (23.4%)
「3～5回」	81人 (27.5%)	13人 (20.3%)
「6～10回」	53人 (18.0%)	3人 (4.7%)
「11～20回」	21人 (7.1%)	0人 (0.0%)
「21～50回」	14人 (4.7%)	0人 (0.0%)
「50回以上」	2人 (0.7%)	0人 (0.0%)
計	295人 (100.0%)	64人 (100.0%)

2 「宿泊を伴う預かり」

会員になってから「宿泊を伴う預かり」を行った人は43人(7.8%)、その内土・日・祝日の預かりを行った人は24人である。また回数は205回でその内土・日・祝日の預かりは72回である。またその内訳をみると1人あたりの援助回数は「1回」が18人(41.9%)、「2回」は6人(14.0%)である。

表8 宿泊を伴う預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	43人(7.8%)	(24人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	205回(3.2%)	(72回)

表9 1人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1回」	18人(41.9%)	12人(50.0%)
「2回」	6人(14.0%)	3人(12.5%)
「3～5回」	10人(23.3%)	7人(29.2%)
「6～10回」	4人(9.3%)	1人(4.2%)
「11回以上」	5人(11.6%)	1人(4.2%)
計	43人(100.0%)	24人(100.0%)

3 「緊急時の保育所等への送迎や預かり」

会員になってから、「緊急時の保育所等への送迎や預かり」を行った人は 239 人 (43.5%)、その内土・日・祝日の預かりを行った人は 56 人である。

また回数は 1,816 回でその内土・日・祝日の預かりは 174 回である。またその内訳をみると 1 人あたりの援助回数は「1 回」が 79 人 (33.1%)、「2 回」は 29 人 (12.1%) である。

表 10 緊急時の保育所等への送迎や預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数 (土・日・祝日)	239 人 (43.5%)	(56 人)
援助を行った回数 (土・日・祝日)	1,816 回 (28.3%)	(174 回)

表 11 1人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1 回」	79 人 (33.1%)	27 人 (48.2%)
「2 回」	29 人 (12.1%)	13 人 (23.2%)
「3～5 回」	58 人 (24.3%)	7 人 (12.5%)
「6～10 回」	38 人 (15.9%)	4 人 (7.1%)
「11 回以上」	35 人 (14.6%)	5 人 (8.9%)
計	239 人 (100.0%)	56 人 (100.0%)

④ 17：00 以降の預かり

会員になってから 17:00 以降の援助について「ある」と回答した人は 279 人 (50.7%)、その援助をした合計回数は 2,359 回 (36.7%) である。またその内訳をみると援助をした時間帯では、「18：00 まで」が 118 人 (42.3%)、「19：00 まで」は 121 人 (43.4%) となっている。

図 5 17：00 以降の預かりについて

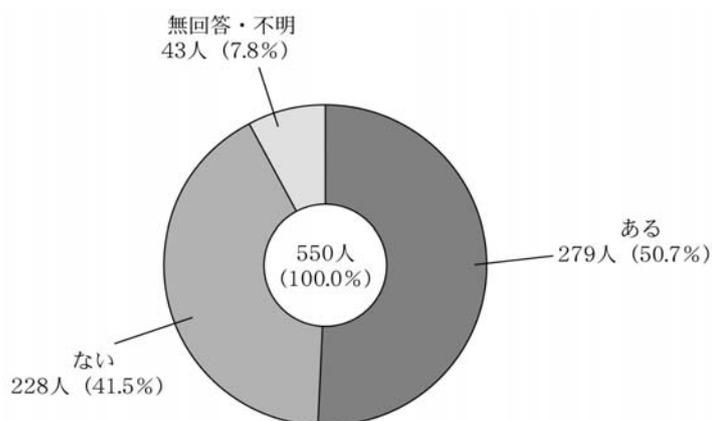


表 12 時間帯別回数（複数回答）

	人数	回数
18：00 まで	118 人 (42.3%)	950 回 (40.3%)
19：00 まで	121 人 (43.4%)	560 回 (23.7%)
20：00 まで	84 人 (30.1%)	422 回 (17.9%)
21：00 まで	60 人 (21.5%)	249 回 (10.6%)
21：00 以降	43 人 (15.4%)	178 回 (7.5%)
計	279 人 (100.0%)	2,359 回 (100.0%)

⑤ 「病児・病後児の預かり」の援助方法

「病児・病後児の預かり」を行った 295 人の中で、どのように援助したかは「保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもをあなたの自宅で預かった」が 174 人 (59.0%)、「保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもを利用会員宅で預かった」が 108 人 (36.6%) である。

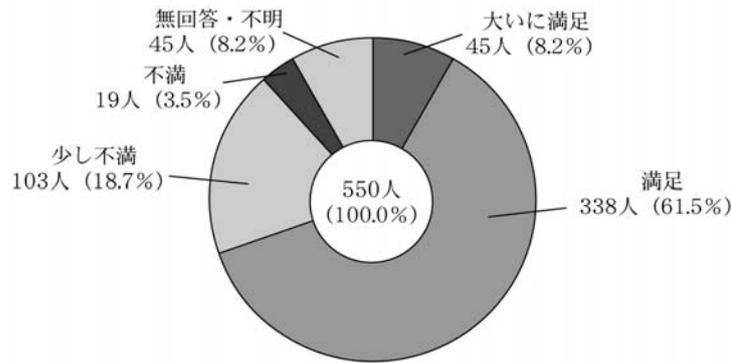
表 13 「病児・病後児の預かり」の援助方法（複数回答）

保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもをあなたの自宅で預かった	174 人 (59.0%)
保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもを利用会員宅で預かった	108 人 (36.6%)
あなたが医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	35 人 (11.9%)
あなたが医療機関に連れて行き受診後、利用会員自宅で預かった	35 人 (11.9%)
あなたが医療機関に連れて行き受診後、病児保育施設へ連れて行った	16 人 (5.4%)
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	23 人 (7.8%)
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、利用会員宅で預かった	15 人 (5.1%)
その他	31 人 (10.5%)
無回答・不明	18 人 (6.1%)
計	295 人 (100.0%)

⑥ 活動に対する評価

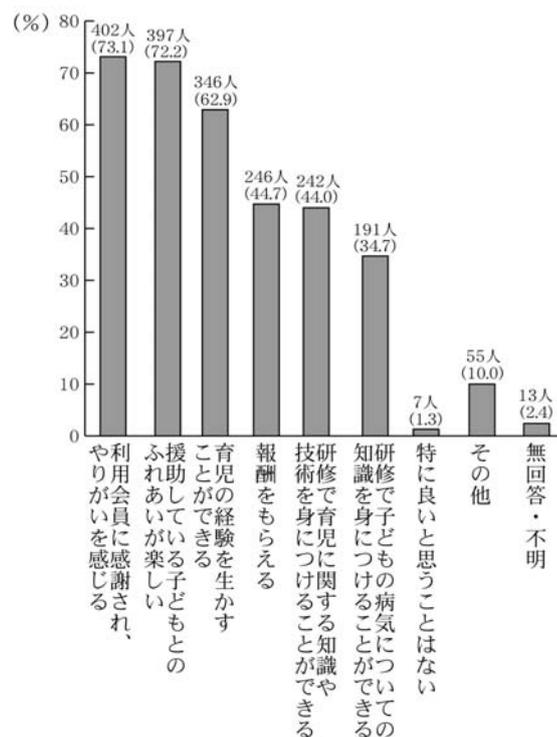
緊急サポートネットワーク事業の活動に満足しているかどうかについては「満足」していると答えた人は338人(61.5%)、「大いに満足」は45人(8.2%)であった。70%程が緊急サポートの活動について満足と答えている。

図6 緊急サポートネットワーク事業に対する満足度



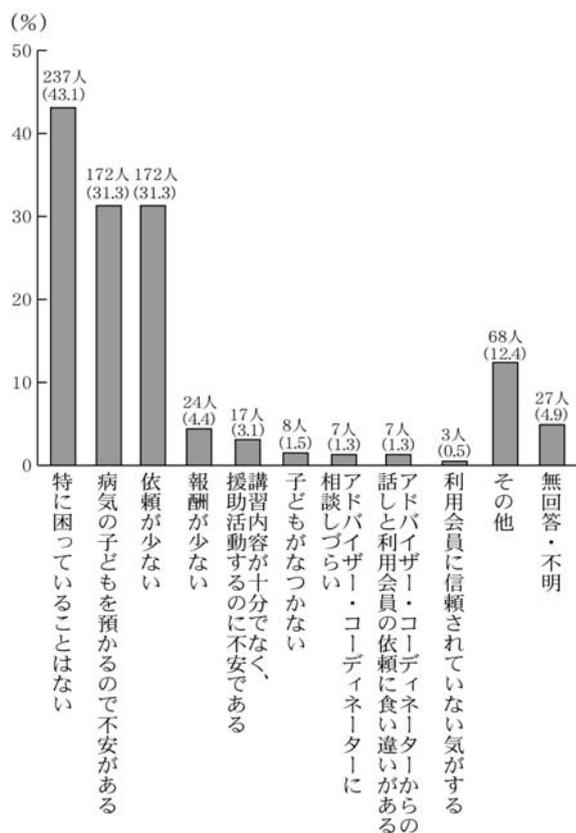
また、具体的に活動してよかったと思う点は「利用会員に感謝され、やりがいを感じる」が402人(73.1%)、「援助している子どもとのふれあいが楽しい」が397人(72.2%)といずれも7割を越えている。次いで「育児の経験を生かすことができる」346人(62.9%)、「報酬をもらえる」246人(44.7%)、「研修で育児に関する知識や技術を身につけることができる」242人(44.0%)となっている。

図7 活動のよい点(複数回答)



反対に困っていることについてみると、237人（43.1%）が「特に困っていることはない」と答えているが、困っていることの最も多いのは「病気の子どもを預かるので不安がある」が172人（31.3%）であるが、一方では同じ人数の人が「依頼が少ない」と答えている。

図8 困っていること（複数回答）



自由記述－緊急サポートネットワーク活動に対する意見・自由記載

緊急サポートネットワーク事業について「良かったこと」「困ったこと」「感想」の自由記述をしてもらったところ、多くの意見をいただいた。

最も多かったのは、働いている親をささえることができる喜びと感謝される喜びであった。一方では依頼に対応できず困ったことや、病気の子どもを預かる不安・大変さがつづられている。

また子育てをしながら働いている親への理解や、緊急サポートネットワーク事業についての意見が述べられている。

【良かったこと】

<働いている親をささえることができる喜び・感謝される喜び>

- ・一生懸命頑張っている母親と出会えること。又援助をしたことで「本当にありがとうございました」と言ってくださること
- ・働くおかあさんが大変増えてきているので、大変よいことだと思います。女性が社会で頑張っていることが実感できます
- ・病児を預かることにより母親が仕事を休むことなく従事できるという点では少し役にたったかなと思うこと
- ・活動によって母親の仕事に支障をきたさずに済んでいることで、自分が社会の役に立っているという実感がある
- ・初めての預かりは、子どもが小学校に入り、パートを始めたばかりの母親でした。今休むとやめなければならないし、本当に困っていらっしゃいました。でもこの日を持ち切り生き生きと働いてる様子を見て、少しでも支援が出来たことがうれしい
- ・感謝の言葉が一番嬉しく家族にもよい影響を与えている
- ・少しの時間でも預かることで、母親が仕事を続けられる手伝いができることを実感できることはうれしい
- ・母親が安心して仕事に行け、私も社会貢献していると思えること
- ・微力ではあるが働くお母さんの手助けができることで老後の生き甲斐になっている。
- ・利用会員から「〇〇さんはこの子達の第2のお母さんです」という言葉をいただいた時本当にうれしかった。信頼される喜びを味わった
- ・母親から、急な依頼にも対応してくれて本当に助かったとお礼を言われ、また何か

あった時はお願いしますと感謝されうれしい。

- ・お預かりして保護者の方に「助かりました」と言っていただけた時はうれしい。子どもの笑顔や天使のような寝顔を見ているとこちらの気持ちまで優しくなってこちらか「ありがとう」と言いたい。
- ・働くお母さんに少しでも力になれるように思っています。子どもさんを預かる不安はありますが、援助が終わったあとのお母さん、お父さんの笑顔が素敵で今後も続けられそうです
- ・仕事をもって子育てをする方の支援ができてうれしい。私も3人の子どもが育てられたのはこういう事業で支えてくださった方がおられたからです。もっともっとみんなの輪が広がっていったらと思う
- ・最初全く不安がなかった訳ではないが、いろいろな支援の方法を経験していく中で考えさせられ、自信にもなった。ただ常に緊張感を持ち「慣れ」という気持ちは持たないよう一つ一つ丁寧に関わっていきたいと考えている。一番の喜びはお母さん、お父さん、子ども達の笑顔です

<子どもとのふれあいが楽しい>

- ・身近にいない孫のような子どものことを学ぶことは本当に楽しい。
- ・子どもからエネルギーをもらえる。
- ・おばあちゃん気分を味わえること。
- ・若い人たちとのふれあいが出来ること。子どもに接することが楽しい。
- ・我が子の手が放れたが、小さい子どもとふれあうことができ楽しい。我が家の子ども達も小さな子どもとふれあうよい機会となっている。
- ・自分の孫が遠く離れているので、小さな子どもとふれあうことが出来たこと、利用会員の方から感謝されたことはよかった
- ・子どもとふれあえて嬉しい。利用会員に感謝され嬉しい。顔を覚えてくれていて外で会った時、挨拶してくれた時嬉しい
- ・子どもが楽しく遊んでいる姿を見ることや、やさしい面とか見られ感じることはうれしい
- ・初めての援助だったのにもかかわらず、うまく懐いてくれ帰りがけに「帰りたくない」とだだをこねられた時は少々嬉しかった。
- ・緊急を要するお子さんの預かりの為、いずれのお子さんも不安100万で、親元を離れるわけです。その弱み??につけ込んで援助会員として100%ピッタリミッチリ

お世話をしてあげられ、帰る頃には居心地のよい場所とおばさんにかわって「ヨッシャ〜」と後ろ姿につぶやく瞬間

- ・母親と別れて泣き出してしまっても、その後「抱っこ」と自分のことを求めてくれる時一番うれしい時
- ・子どもの笑顔を見ていると本当に子どもは世界の財産であることを実感しました。どうかこの子ども達の未来が明るいものでありますようにと願わずにはられません。安心して子どもを育てる環境作りに自分が微力ながらかかわっていくことができればよいと思いました
- ・何気ないことが、子どもの口から出てきて、ハットさせられることがあります。私も生涯教育と思って子どもから学ばせてもらい元気をもらっています。又保護者の方にも元気になってほしいです

＜研修会に参加出来たこと＞

- ・講習があり、知識の再認識、また新しい知識を得ることができること。
- ・研修会を通じて会員同士の交流が得られた事
- ・いろいろな研修に参加し学ぶことができた。多くの方と知り合いになれた
- ・研修があり色々視野を広めることができること
- ・研修の時、他の会員と仲良くなり、支援したときの情報を交換できたこと。又支援するのは大変だけれども頑張ったとおもいます。
- ・同じ考えを持っている方、向上心のある方など多くの友人ができ感謝している。
- ・他のサポートスタッフと情報交換ができてよかった。

＜資格・経験が役にたったこと＞

- ・保育士の資格を持っていることが役にたったこと。又自分の子育てを振り返るチャンスでもある。
- ・結婚前、保育士として働いていましたが、そのころの自分が少しずつ思い出され、年と共に自分に自信がなくなっていたのですが、自分を誇れる一筋の希望が見えたように感じました。
- ・60歳退職まで小学校教員として、また養護学校教員として3人の子どもを保育所に預けながら働いた経験から、働く女性を援助したいと思っていた。退職後自分の経験が生かせる活動ができたこと
- ・保育者としての経験を生かし、かわいい子ども達と接する事、又おかあさん達に感

謝の言葉をいただけると頑張っただけよかったなと思います。人の助けになれるのは大変うれしい事

- ・資格や経験したことが役立てられ、働く方の力になれることが嬉しい。

<働いていた時、子どもが病気になった時困ったから・助けてもらったから>

- ・自分が子育てをしている時、仕事を休めないなど本当に困ったことが何度もある。しかも急に。そんな時この制度があったら絶対に利用していただろう。困った時にすぐに対応というシステムが、親にとりすごく心のささえになっているといつも思う
- ・自分が共働きで保育所や学童保育にとっても助けられた。その経験を少しでも役立てたいと思い参加した。まずは参加できたことがよかった。
- ・私自身、病気がちの子どもを3人持ち、共働きをしていたことがあり、サポートしてくれる人のありがたさは身にしみています。ですからすこしでも役に立てる立場に慣れることを嬉しく思いやりがいがあります。
- ・自分も共働きをしてきた中で子どもに我慢させてきた事が多くあります。病気の時に無理をさせて保育所に預けた事もありました。お金を出すことで安心した環境に子どもを預けることができるのはすばらしい。もっと普及してほしい。何がたりないのか要検討
- ・前からこのような事業は絶対必要と思っていたので喜んでいきます。女性が安心して働ける事は必要と思います。ピンポンと呼び鈴を押した時ドアを開けるお母さんの顔がとても印象的です
- ・自分自身が仕事を続ける中で「どうしても仕事を休めない」時、子どもが病気になってしまい預かってもらえず苦労しました。働いている女性（男性）をそのような時、助けてあげられると、私自身もうれしい
- ・かつて自分が親に支えられて働き続けた事を、こういう形で返されるのは喜びである。

【困った事】

<依頼にこたえられないこと>

- ・緊急過ぎて、こちらの都合がつかず断ったとき、その後こどもはどうなったかが気がかり
- ・突然の依頼があっても自分の都合が悪く断る時、第2、第3の方がいてくれればうれしいのですが……
- ・依頼が重なったとき、断るのがつらい

- ・他に仕事をもっているのに、依頼があってもなかなか対応できない
- ・突然の依頼で自分の予定を調節して受け入れることになるが、調整できない時は断る事もある。
- ・緊急だから仕方がないのですが、先に用事が入っていて依頼に対応できないことが多いので困っている。
- ・緊急時なので、お断りするケースが多く後味の悪い想いがいつもある
- ・病児の預かりはいつも突然なので、自分の用事があったりして保護者の希望に添えない事もある。
- ・急な依頼のため自分の用事が入っていて申し訳ないと思う

＜研修について＞

- ・もう少し、病気などの研修があればよいのと思います。
- ・講習内容が期待したほどでなかった
- ・ステップアップできるような魅力がある研修がない
- ・スケジュールの都合で研修・講習に参加しにくい。もっと数を多く開催されればよい
- ・研修を受けて活動に望んでいます。まだまだ勉強不足で不安があり、研修の機会がもっとほしい
- ・講習内容は提供会員の年齢・育児経験によって変えても良いと思う。ついこの間まで乳幼児を育てていた会員と、育児を終えた祖父母世代では情報量が違う。又もっと詳しい専門知識を教えてほしい

＜病気の子どもを預かる不安＞

- ・病児はいつ体調が急変するかわからないので、不安である
- ・病気の子どもをあずかることに不安がある。また預かったあと自分が体調をくずしてしまった
- ・病児受け入れについて、感染症の場合自分が仲介になり、次の活動の子どもに移したり次の活動の子どもに移したりすることはないか（インフルエンザの時期は自分への感染が不安である）
- ・病児の預かりがほとんどの為、実際に容態が急変した場合の対処がうまくできるか等の不安がある
- ・月齢が低い子どもはやはり不安があるので引き受けるかどうか悩む
- ・病児なので、体調観察が気をぬけない。気を引き締めている分疲れはでます

- ・親の迎えが遅れると、子どもも不安になりこちらも打ち合わせが間違ったのかと不安になった
- ・高熱の対応で、冷やすことや、又遊びたくてゆっくり寝てられないような子どもの支援は、自分の子どもだとある程度ほっておいてよいと思うことが援助をしている場合常に気を使い声をかけて気にしている。
- ・病児・病後児の預かりは長時間であるので、体力より精神的緊張による疲労が大きい。スタッフ会員が増えて複数体制がとれるといい。
- ・自分の子どもがいて自宅で病児の預かりをしているため、自分の子どもに病気が移らないように風通しや、子どもが帰ったあとの掃除が少々大変である
- ・大切な子どもを預かるので、子どもの接し方など要望があればしっかり伝えてほしい。特に病気の子どもの預かる場合は細かく教えてほしい

<急にキャンセルされること>

- ・自分の予定が決まっていたが、依頼があったため、自分の用事をキャンセルして依頼を受けたのに、前日にサポートのキャンセルを受けた事
- ・夜間連絡でサポートの依頼を引き受けたが、翌朝キャンセルの連絡があった。緊急なので仕方がないが、大変な仕事だと感じる

<料金のこと>

- ・利用会員に料金がもう少し安いとよいと言われること
- ・会員制なので子育てのお母さんお父さんの全ての人に知ってもらうことができなくて利用者が少ない。無料でないこともサポートする側としては心苦しい。半分くらいは国から補助ができればと思う
- ・利用料の補助がない現状ではニーズに充分応えられない。「1日預けたらこんな料金になるのねー」といわれ断念される。
- ・時間がながいと、お金が高額になるため金額をいうのをためらう
- ・医療機関で診察を受けた時、保険証等を持参しないと全額支払いでサポーターが支払わなければいけないと言われたこと
- ・利用会員さんの中に「他に依頼すればもう少し低料金で見ていただけるのでその方が良い」と言われた方がありとてもがっかりしたことがありました。

【感想】

＜広報をもっとすべき＞

- ・依頼が少ない。コーディネーターは利用者の獲得に走り回るべきだ。事務局でまっ
ているだけでは、宣伝が行き届かないので、会員になろうと言う方はあられもない。
知名度が低すぎ。困っている親は多いのに役にたっていない。もっとアピールして
活動をふやしてほしい。
- ・同じような事業をしているところがあり、あまり緊急の事業が知られていないと思
う。もっと宣伝をするべし。全小児科にパンフレットをおいたり、ポスターを貼っ
たり存在を広める必要がある。（保健所や役所も）利用者は知らない人がほとんど
と思う。
- ・地方になると、この事業のことを知っている親は少ない。働く親にチラシより宣伝、
行政の力を借りて周知して認知度を上げなければと思う
- ・ファミリーサポートセンターの方でも少しの熱でも預かっている。利用者にわかり
にくい
- ・この事業を知っている方が少なく、自分でもアピールの仕方を考えて実行している
が、地道な作業
- ・まだまだ周知されていません。学校・病院などに行き、周知活動もしているが、行
政にもっと協力的であってほしい。
- ・ちょっと知らない人に可愛い子どもを預ける事は不安だけれど、このシステムがあ
って助かる親がまだまだいると思います。啓蒙活動して手助けできればと思ってい
ます
- ・緊急サポートがあることをもっとたくさんの人に知ってもらいたい。会員に登録し
てもらうことが大切だと思う
- ・支援を必要としている人がもっとたくさんいるはずだが、サポート事業を知らない
人が多いので、もっと社会に、企業に告知するべきです
- ・緊急サポートネットワーク事業の活動を知らないお母さん達がまだまだいるので
もっと周知してください
- ・知り合いの助産師さんは、夜勤の時の子どもの世話にこまっていたのでこのシステ
ムを教えました。以外と働く女性自身がこの事業を知らない事が多い様です。
- ・「緊急サポート」について広く知っていただき、上手に使っていただきたい。依頼
する方は「どんな方が来て、どのように接してくれるか」不安だと思うのでその点
をもっとオープンにしたほうが良いと思う

- ・地域性もあり（三世帯同居が多い）利用が少ないと思うがもっと気軽にというか、抵抗なく使ってもらいたいと考える。この事業を知らない人が多すぎる
- ・私の住んでいる地域では知られていない活動なので、もっと広く利用する側、受ける側への広報が必要だと思う
- ・もっと宣伝するべし。全小児科にパンフレットを置いたり、ポスターを貼ったりと存在広めるべし。知らない人が多い。また報酬が高すぎる。もっと低くして使ってもらいたい。
- ・緊サポの研修に参加して学ぶことは多い。依頼がないのは住んでいる地域に保育サービスが充分にあるのだと思うし三世代同居の地域でもあるのかと思うが緊サポの名前が一般的に知られていないこともあるかも知れない。

<アドバイザー・コーディネーターについて>

- ・利用会員の方へアドバイザー・コーディネーターが丁寧な話しをして下さるので、改めて説明ということはありません。安心できます。命を預かっていると思うとこのサポートの大切さ、重さをとても感じずにはられませんその割にまだまだ認められていないと思います
- ・コーディネーターが私的感情を入れず、サポートの仕事を手配してくれ、その後の相談も時間問わず応じてくれるところが「すごい」と思いました。子をサポートするのではなく子から私自身が「心のサポート」をされています。一生懸命働く親に励まされて、この仕事を続けている自分があります。子育てのために仕事を辞めた私としては、できる限りこの仕事をしたいと思います。
- ・アドバイザーの人柄で助かったり救われたりします。事務所に行くのが楽しくて、ついつい顔を見に行ってしまう。女性のかげこみ寺のようです
- ・支援へ行く前もコーディネーターが、いろいろアドバイスしてくれたり、前回の支援の様子などを伝えてくれ、又支援中も何かあったらすぐ連絡してねと声をかけてくれ心強い
- ・コーディネーターの方々は実に寛大で頭が下がります。お願い会員からの難題もワンクッションおいておまかせ会員によく意向を伝えて気持ちよくサポートできる配慮や言葉をかけてくれてとても助かります。金銭面・時間のチェックもして下さりとても助かります
- ・コーディネーターが利用者とサポーターとのマッチングや連絡を上手にしてくださり、サポートがスムーズにできよかった

- ・コーディネーターが利用・サポート会員の間にいるためとても気が楽です。サポート会員同士にもコーディネーターが依頼の手配で連絡をしてくれるので安心
- ・アドバイザーからきちんとした説明があり信頼出来たこと
- ・コーディネーターは利用者の獲得に奔走すべきだと思う。事務局で待っているだけでは宣伝が行き届いていないので会員になろうという人が現れませんから！設立してから1年になろうとしているが知名度が低く、困っている親が沢山いるのに役に立っていない。
- ・コーディネーターの中にもっといろいろな経験を積んだ方が1人いると相談しやすいので・・・と思う

＜子育て中の働いている親の環境について＞

- ・今の母親は仕事への責任があり、休みたくても休めない状況で子育てが大変なのだなーと思います
- ・親の負担を考えると、子育て中、お休みがとれ、病気の際は自分が見てあげられる環境になるとよいと思います
- ・本当は職場での労働形態が働く女性が子どもの病気の際は休むことができるような、ゆるやかな状況があると一番良いと思う。しかし現実はまだまだ厳しいので緊急サポートは必要だと思います
- ・女性が子どもがいて働くということは、職場・回り・夫の協力なくては本当に厳しいということがよくわかりました。父子家庭でも同じ・・・この事業が本当に必要とされていると実感しました。いろいろな人達の中で子育てしているという事がよくわかりました
- ・自分の子育て時代と違い、今は働く女性がほとんど・・・と実感します。昔社宅での生活で、子どもを預け病院へ行ったり預かったりという日常でした。昔のように、とはいっても隣近所のつきあいも少なくなった現在、それも難しい事ですが、少しでも私も役にたてればと思います。
- ・「この時期を越えれば続けられる！」 「「ほんとは遠慮なく休みたい」 こんな声が聞こえる気がします。とりあえず今できることとしてこの制度を続けてほしいです。

＜緊急サポートネットワーク事業について＞

- ・働いている親達にとって、このようなサポートシステムは絶対に必要だと思うので、その一助となれば幸いです。子ども達が親を待つ間安心して時間を過ごせるよう

愛情を持って当たりたい

- ・働く親のサポート、登録することで随分「安心」されているように感じます。実際事前打ち合わせ等数を組んでも活動につながらないのも多い・・・良いことかもしれません
- ・仕事に育児にがんばっているお母さんやお父さんを少しでも手助けしたいと思い会員になりました。今後もっと病児・病後児支援の輪が広がることを希望します
- ・「やっと」という感があります。けれども「まだまだ」ですね。永遠にこの事業が発展することを願います。
- ・初めての援助の時は心配なことがかなりありましたが、援助の回数を重ねていく毎に、やりがいを感じるようになり依頼の電話を受けて心配することが減った。この事業があることに感謝している
- ・女性の仕事と育児の両立の手助けになればと思い始めた。病気の時、親が留守して不安感をすこしでもとりのぞけることができるとお手伝いしている。子どもの笑顔に私自身がとても励まされる
- ・女性が母親であることと同時に社会の一員として、人間としての立場・責任もはたせる社会になるために病児保育は必要不可欠とっていたのでこの制度はとても重要です。そこに携われることができることにとてもうれしいことと感じている。
- ・働く方にとって「子どもの病気」がネックだったと言う方の意見が多い中、この事業は働く方に必要な事業であり、それに参加できることはうれしい

3. 利用会員編

各団体毎に援助を受けた利用会員を無作為に抽出し、1,110 人に対して調査を実施した。有効回答者数は 414 人、回答率は 37.3%であった。

(1) 利用会員の概要

① 性別、年齢

利用会員は 414 人のうち、「女性」が 390 人 (94.2%)、「男性」が 23 人 (5.6%) と圧倒的に女性が多い。

年齢は「30～34 歳」が 136 人 (32.9%)、「35～39 歳」が 124 人 (30.0%) で 30 歳代が 60%以上を占めている。

図 1 性別

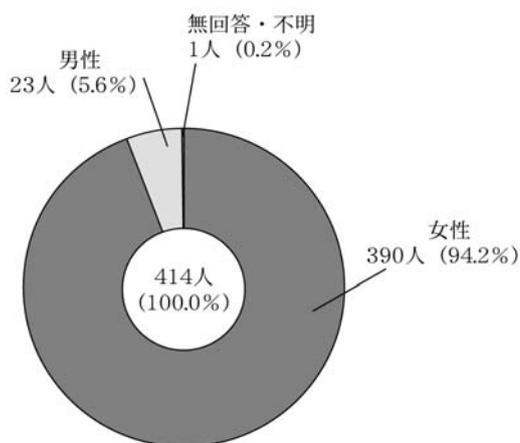
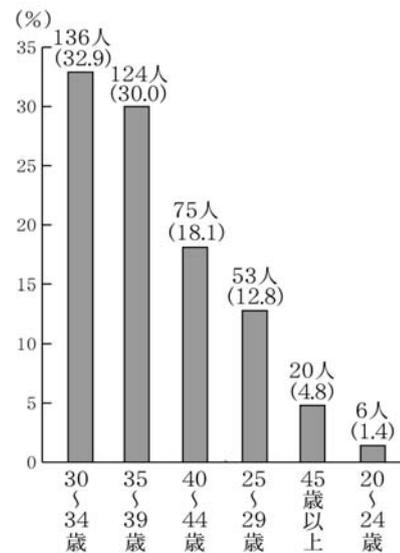


図 2 年齢



② 仕事の形態、勤務形態

仕事の形態をみると、「フルタイムで勤務している」は250人(60.4%)、「パートタイムで勤務している」は106人(25.6%)、「自営業」は23人(5.6%)となっている。またフルタイム又はパートタイムではたらいている人356人のうち302人(84.8%)は日中の通常勤務である。

図 3-1 仕事の形態

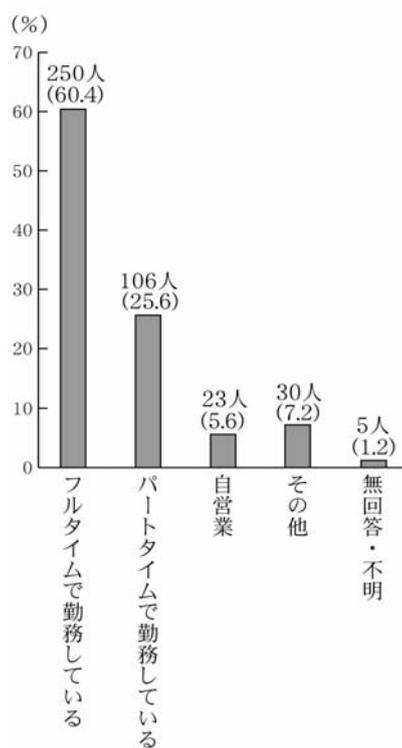
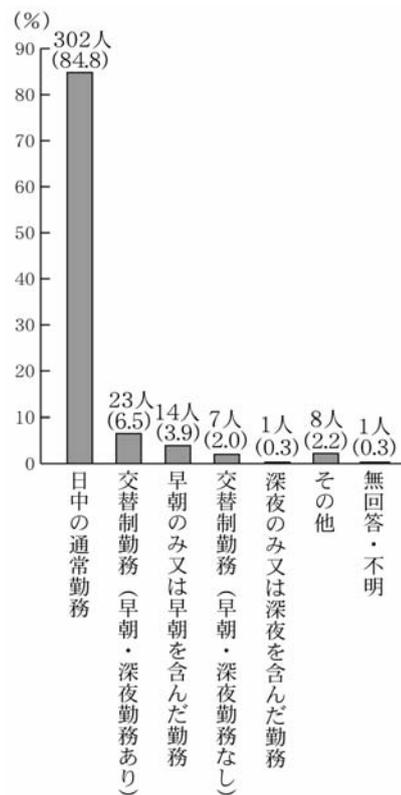


図 3-2 勤務形態



③ 早出や残業、土・日・祝祭日の出勤

日中の通常勤務の302人のうち、「早出や残業はほとんどない」人は130人(43.0%)、「月に3～4回程度」の人は78人(25.8%)、「月に10回程度」の人は47人(15.6%)、「月に15回以上」の人は43人(14.2%)となっている。

土・日・祝祭日の出勤については、「ほとんどない」人は132人(43.7%)、「月に1～2回程度」の人は93人(30.8%)、「月に3～4回程度」の人は62人(20.5%)である。

図 3-3 早出や残業

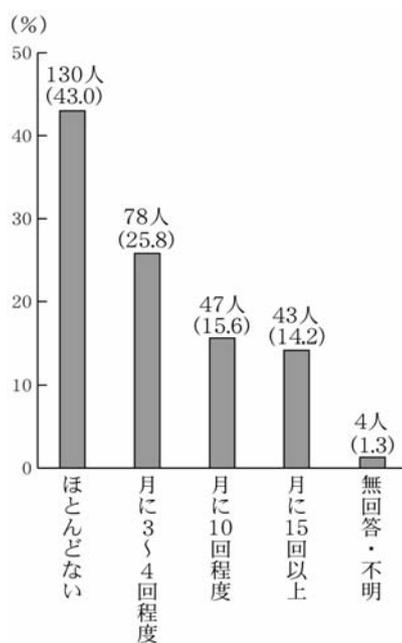
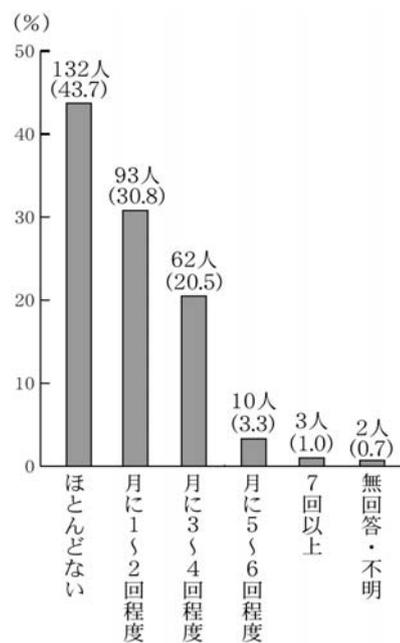


図 3-4 土・日・祝祭日の出勤



④ 同居している家族・子どもの数・子どもの年齢

同居の家族については、8とおりの家族構成パターンとなっており、317人（76.6%）が「子どもと配偶者」で、次いで「子ども」のみが48人（11.6%）となっている。

表 1 家族構成

子ども	48人（11.6%）
子ども+配偶者	317人（76.6%）
子ども+配偶者+親	23人（5.6%）
子ども+配偶者+親+その他	5人（1.2%）
子ども+配偶者+その他	1人（0.2%）
子ども+親	16人（3.9%）
子ども+親+その他	3人（0.7%）
子ども+その他	1人（0.2%）
計	414人（100.0%）

同居している子どもの数は、「1人」が198人（47.8%）、「2人」が161人（38.9%）、「3人」が47人（11.4%）となっている。

同居している子どもの年齢は7とおりのパターンとなっており、「就学前」の子どもがいる人は257人（62.1%）、「就学前と小学生」の人は86人（20.8%）、「小学生のみ」の人は43人（10.4%）となっている。

図 4-1 同居している子どもの数

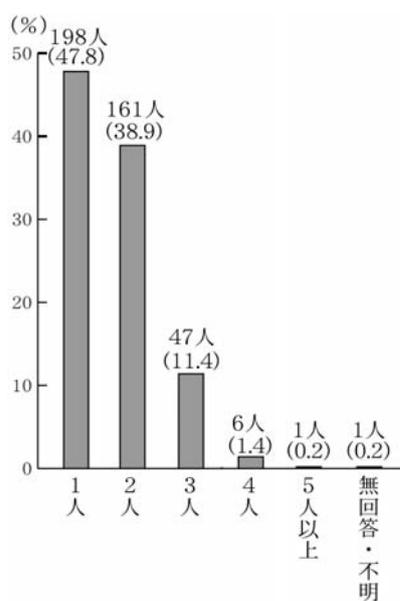


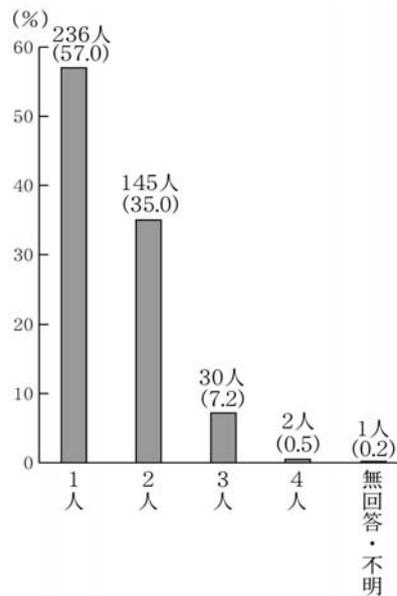
表2 同居している子どもの年齢構成

就学前	257人 (62.1%)
小学生	43人 (10.4%)
中学生以上	1人 (0.2%)
就学前+小学生	86人 (20.8%)
就学前+小学生+中学生以上	7人 (1.7%)
就学前+中学生以上	6人 (1.4%)
小学生+中学生以上	13人 (3.1%)
無回答・不明	1人 (0.2%)
計	414人 (100.0%)

⑤ 緊急ネットワーク事業に登録している子どもの数・子どもの年齢

緊急サポートネットワーク事業に登録している子どもの数は、「1人」が最も多く236人(57.0%)、次いで「2人」が145人(35.0%)となっている。

図4-2 登録している子どもの数



また登録している子どもの年齢は、「1歳～3歳」が245人（59.2%）、「4歳～就学前」は146人（35.3%）、「小学校低学年」は121人（29.2%）となっている。

表3 登録している子どもの年齢（複数回答）

0歳	41人（9.9%）
1歳～3歳	245人（59.2%）
4歳～就学前	146人（35.3%）
小学校低学年	121人（29.2%）
小学校高学年	27人（6.5%）
中学生以上	4人（1.0%）
無回答・不明	2人（0.5%）
計	414人（100.0%）

⑥ 同居家族以外に緊急時の預かりを頼める人

同居の家族以外に緊急時の預かりを頼める人がいるかどうかを聞くと、「いない」が210人（50.7%）、「いる」の203人（49.0%）とほぼ同じである。

頼める人がいる203人を見ると、「あなたの親・配偶者の親」が136人（67.0%）と最も多く「友人・知人・近所の人」は47人（23.2%）となっている

図5 同居の家族以外に緊急時の預かりを頼める人の有無

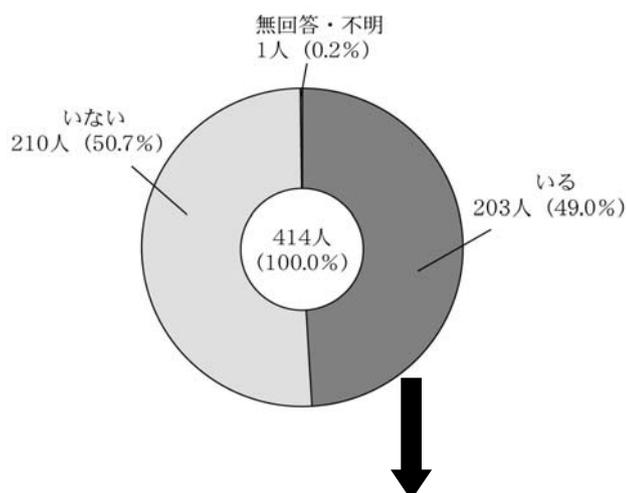


表4 同居家族以外の緊急時依頼のできる人

あなたの親・配偶者の親	136人（67.0%）
親戚	20人（9.9%）
友人・知人・近所の人など上記1・2以外の人	47人（23.2%）
計	203人（100.0%）

⑦ 緊急サポートネットワーク事業以外に緊急時の預かりのために登録している場所（複数回答）

緊急サポートネットワーク事業以外に緊急時の預かりのために登録している団体があるかどうかは、「ある」が252人（60.9%）、「ない」が160人（38.6%）である。どのようなところに登録しているかは「ファミリー・サポート・センター」が177人（70.2%）、「病児保育施設」は108人（42.9%）、「民間のベビーシッター」は35人（13.9%）である。

図6 登録場所の有無

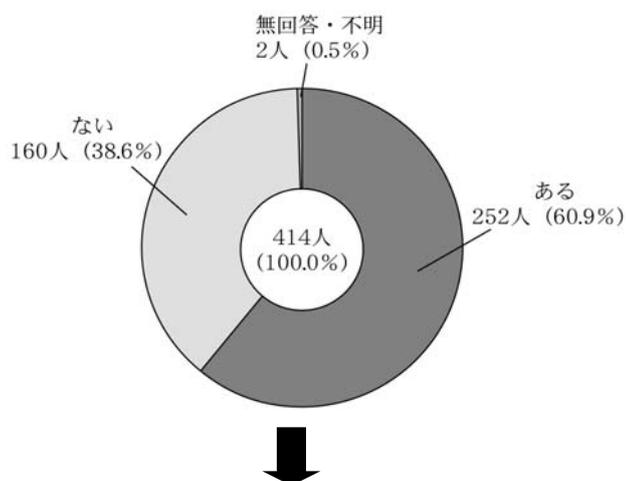


表5 緊急時預かりのための登録場所（複数回答）

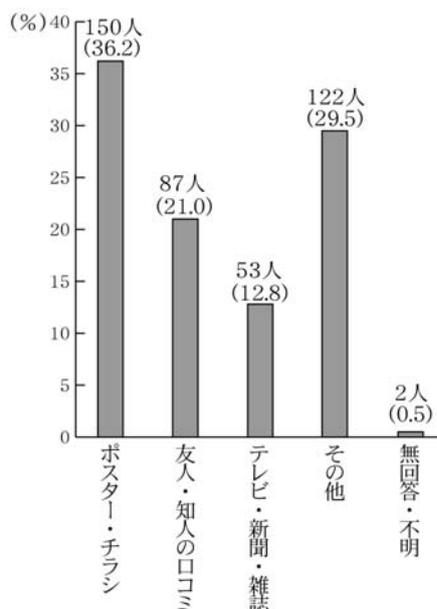
ファミリー・サポート・センター	177人 (70.2%)
病児保育施設	108人 (42.9%)
民間のベビーシッター	35人 (13.9%)
その他	28人 (11.1%)
無回答・不明	2人 (0.8%)
計	252人 (100.0%)

(2) 事業について

① 事業を知ったきっかけ

利用会員になったきっかけは、「ポスター・チラシをみて」が150人(36.2%)、「友人・知人の口コミ」は87人(21.0%)となっている。

図7 利用会員になったきっかけ



② 会員になってからの期間・依頼回数

会員になってからの期間は、「6ヶ月以上～1年以内」が109人(26.3%)、「3ヶ月以上～6ヶ月以内」は105人(25.4%)、「1年以上～1年6ヶ月以内」が87人(21.0%)である。

また、会員になってからの援助を受けた回数は「6ヶ月以上～1年以内」が947回(34.5%)、「1年以上～1年6ヶ月以内」が772回(28.1%)である。

表6 会員になってからの期間・依頼回数

	人数	依頼回数
3ヶ月以内	67人(16.2%)	184回(6.7%)
3ヶ月以上～6ヶ月以内	105人(25.4%)	445回(16.2%)
6ヶ月以上～1年以内	109人(26.3%)	947回(34.5%)
1年以上～1年6ヶ月以内	87人(21.0%)	772回(28.1%)
1年6ヶ月以上	45人(10.9%)	399回(14.5%)
無回答・不明	1人(0.2%)	0回(0.0%)
計	414人(100.0%)	2,747回(100.0%)

③ 依頼状況

会員になってから援助を受けた人数は 414 人で、援助を受けた合計回数は 2,747 回である。

項目別にみると次のとおりである。

(1) 病児・病後児の預かり

会員になってから「病児・病後児の援助」を受けた人は 210 人（50.7%）、そのうち「土・日・祝日」の援助を受けた人は 26 人、また、援助を受けた回数の合計は 923 回で、そのうち「土・日・祝日」の回数は 50 回である。またその内訳をみると 1 人あたりの援助を受けた回数は「1 回」が 60 人（28.6%）、そのうち 16 回が「土・日・祝日」の援助を受けている。

表 7 病児・病後児の預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を受けた人数 (土・日・祝日)	210 人 (50.7%)	(26 人)
援助を受けた回数 (土・日・祝日)	923 回 (33.6%)	(50 回)

表 8 1 人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1 回」	60 人 (28.6%)	16 人 (61.5%)
「2 回」	41 人 (19.5%)	3 人 (11.5%)
「3～5 回」	60 人 (28.6%)	6 人 (23.1%)
「6～10 回」	39 人 (18.6%)	1 人 (3.8%)
「11～20 回」	7 人 (3.3%)	0 人 (0.0%)
「21～50 回」	2 人 (1.0%)	0 人 (0.0%)
「50 回以上」	1 人 (0.5%)	0 人 (0.0%)
計	210 人 (100.0%)	26 人 (100.0%)

(2) 宿泊を伴う預かり

会員になってから「宿泊」を伴う援助を受けた人は8人(1.9%)、そのうち「土・日・祝日」の援助を受けた人は3人、また、援助を受けた回数の合計は50回で、そのうち「土・日・祝日」の回数は8回である。

また、1人あたり援助を受けた回数は「1回」4人(50.0%)、「2回」が3人(37.5%)である。

表9 宿泊を伴う預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を受けた人数(土・日・祝日)	8人(1.9%)	(3人)
援助を受けた回数(土・日・祝日)	50回(1.8%)	(8回)

表10 1人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1回」	4人(50.0%)	1人(33.3%)
「2回」	3人(37.5%)	1人(33.3%)
「3～5回」	0人(0.0%)	1人(33.3%)
「6～10回」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
「11～20回」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
「21～50回」	1人(12.5%)	0人(0.0%)
「50回以上」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
計	8人(100.0%)	3人(100.0%)

(3) 緊急時の保育所等への送迎や預かり

会員になってから「緊急時の保育所等への送迎の援助」を受けた人は135人(32.6%)、そのうち「土・日・祝日」の援助を受けた人は17人、また、援助を受けた回数の合計は809回で、そのうち「土・日・祝日」の回数は53回である。

また1人あたりの援助を受けた回数は「1回」52人(38.5%)、そのうち7人(41.2%)が、「土・日・祝日」の援助を受けている。「2回」22人(16.3%)で、そのうち5人(29.4%)が、「土・日・祝日」の援助を受けている。

表 11 緊急時の保育所等への送迎や預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を受けた人数(土・日・祝日)	135人(32.6%)	(17人)
援助を受けた回数(土・日・祝日)	809回(29.5%)	(53回)

表 12 1人あたりの援助回数

	人数	土・日・祝日
「1回」	52人(38.5%)	7人(41.2%)
「2回」	22人(16.3%)	5人(29.4%)
「3～5回」	29人(21.5%)	2人(11.8%)
「6～10回」	19人(14.1%)	3人(17.6%)
「11～20回」	7人(5.2%)	0人(0.0%)
「21～50回」	5人(3.7%)	0人(0.0%)
「50回以上」	1人(0.7%)	0人(0.0%)
計	135人(100.0%)	17人(100.0%)

④ 17時以降の援助について

17時以降も続けて援助をうけた有無をみると「ある」は218人(52.7%)、「ない」は171人(41.3%)である。その内訳をみると「18:00まで」が101人(46.3%)、「19:00」までは70人(32.1%)、「20:00まで」は40人(18.3%)となっている。

また、17時以降に援助を受けた回数は1,250回で、「18:00まで」458回(36.6%)、「19:00まで」475回(38.0%)である。

図8 17:00以降の援助の有無

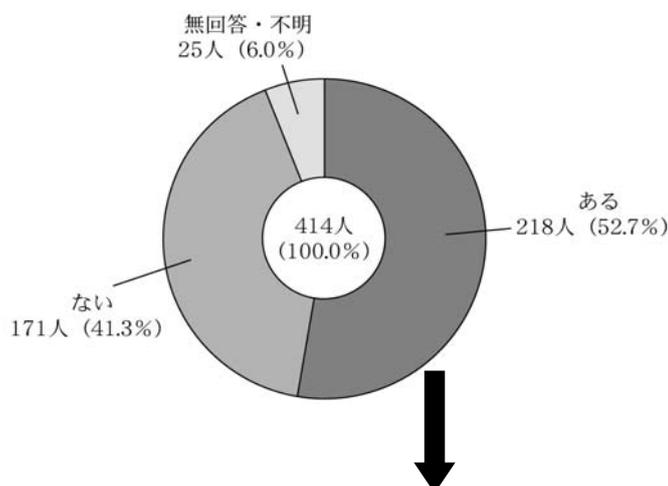


表13 時間帯別回数(複数回答)

	人数	回数
18:00まで	101人(46.3%)	458回(36.6%)
19:00まで	70人(32.1%)	475回(38.0%)
20:00まで	40人(18.3%)	200回(16.0%)
21:00まで	22人(10.1%)	56回(4.5%)
21:00以降	15人(6.9%)	61回(4.9%)
無回答・不明	16人(7.3%)	0回(0.0%)
計	218人(100.0%)	1,250回(100.0%)

⑤ 事務所開設時間外の援助依頼について

会員になってから、「事務所開設時間外」に援助の依頼をしたことがあるかについて、「ある」が130人(31.4%)、「ない」274人(66.2%)となっている。またその回数は「1回」が38人(29.2%)、「2回」は32人(24.6%)である。事務所開設時間外の団体の対応は、大半が「すべて対応してもらった」が112人(86.2%)、「断られたこともある」は15人(11.5%)となっている。

図 9-1 事務所開設時間外の援助依頼について

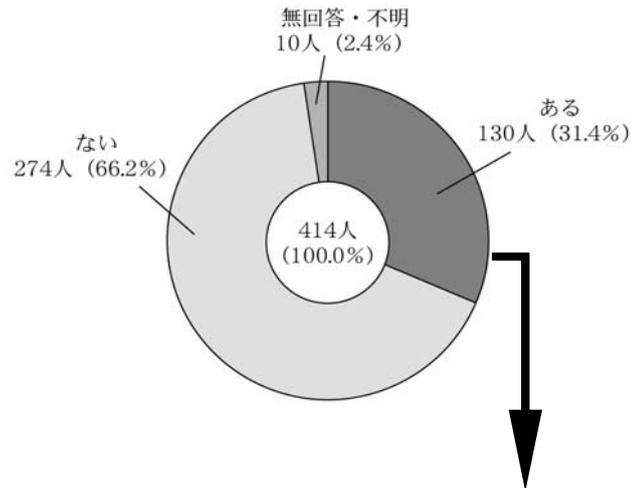
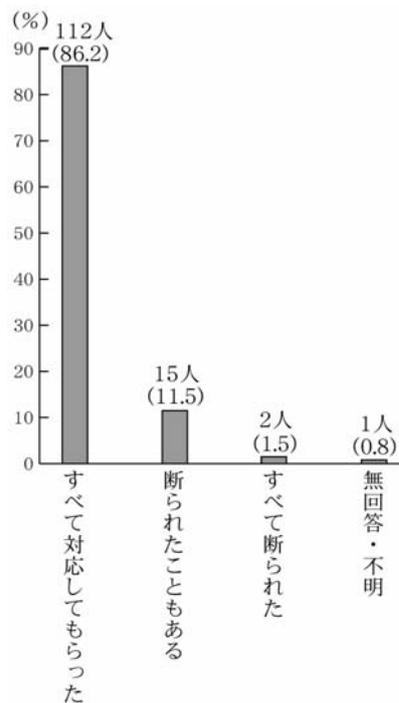


表 14 事務所開設時間外の援助依頼回数

「1回」	38人 (29.2%)
「2回」	32人 (24.6%)
「3～5回」	32人 (24.6%)
「6～10回」	9人 (6.9%)
「11～20回」	2人 (1.5%)
無回答・不明	17人 (13.1%)
計	130人 (100.0%)

図 9-2 事務所開設時間外の対応状況



⑥ 援助依頼のキャンセル・断られたことの有無

会員になって「援助の依頼のキャンセル」をしたことが「ある」は128人(30.9%)、となっており、その理由は「子どもの具合がよくなったため」が45人(35.2%)、「他に見てくれる人が見つかったため」は39人(30.5%)となっている。

図 10-1 キャンセルの有無

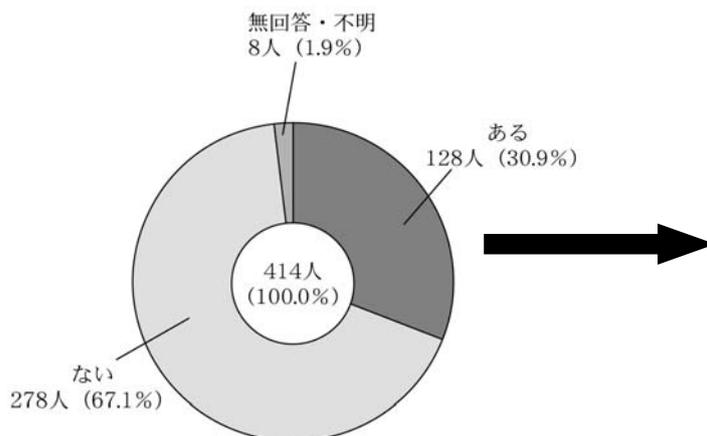
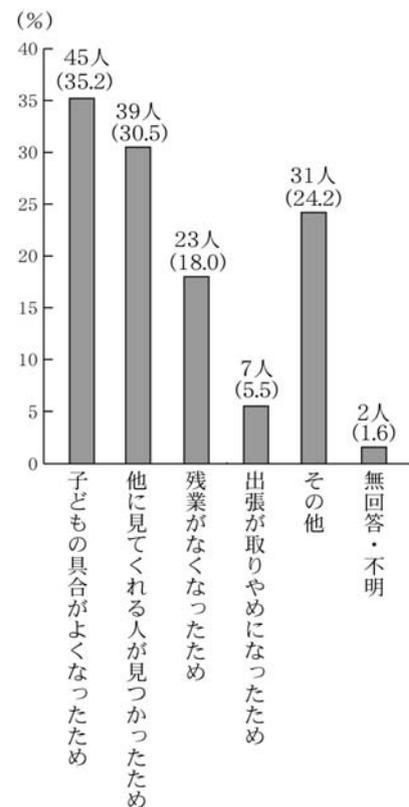


図 10-2 キャンセルの理由（複数回答）



会員になって援助依頼をして断られたことが「ある」が59人(14.3%)、「ない」は340人(82.1%)である。断られた回数は「1回」45.8%、「2回」23.7%である。援助依頼を断られた時の対応は「自分が仕事を休んだ」が35人(59.3%)、「別居の家族に頼んだ」が14人(23.7%)、「同居の家族に頼んだ」は11人(18.6%)である。

図 11-1 依頼を断られたことの有無

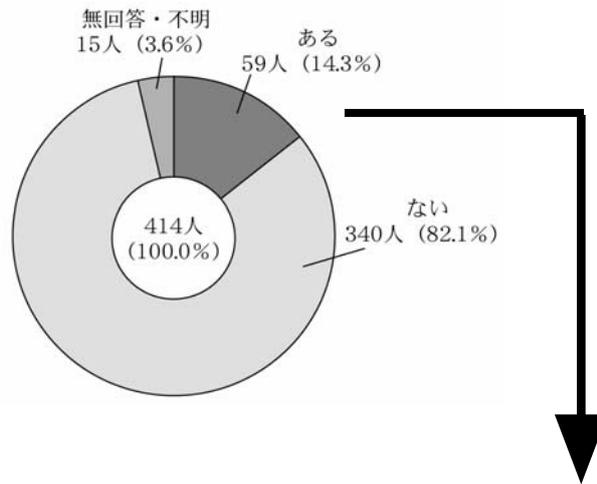
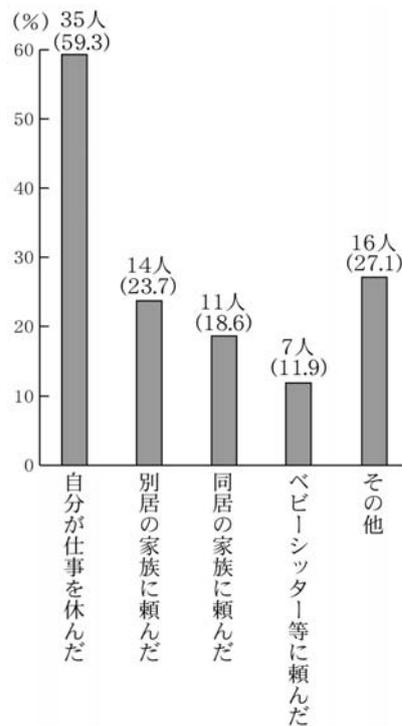


表 15 依頼を断られた回数

1回	27人 (45.8%)
2回	14人 (23.7%)
3~5回	10人 (16.9%)
無回答・不明	8人 (13.6%)
計	59人 (100.0%)

図 11-2 依頼を断られた時の対応（複数回答）



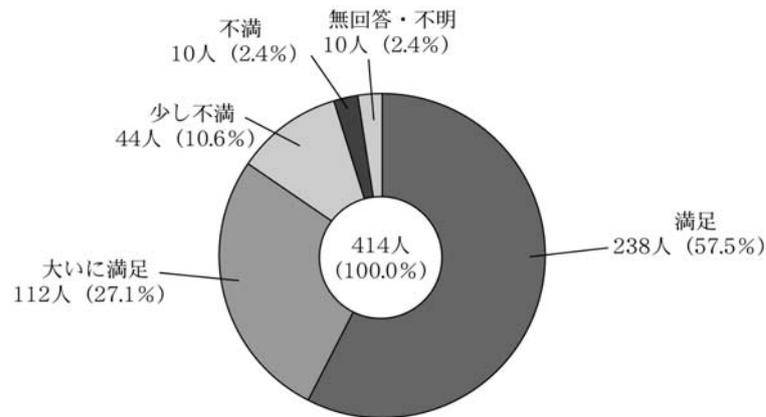
(3) 活動に対する評価

① 満足度、良いと思うこと、困っていること

緊急サポートネットワーク事業に「満足」とする人が238人(57.5%)、「大いに満足」は112人(27.1%)で、あわせて350人(84.6%)が満足であると回答している。

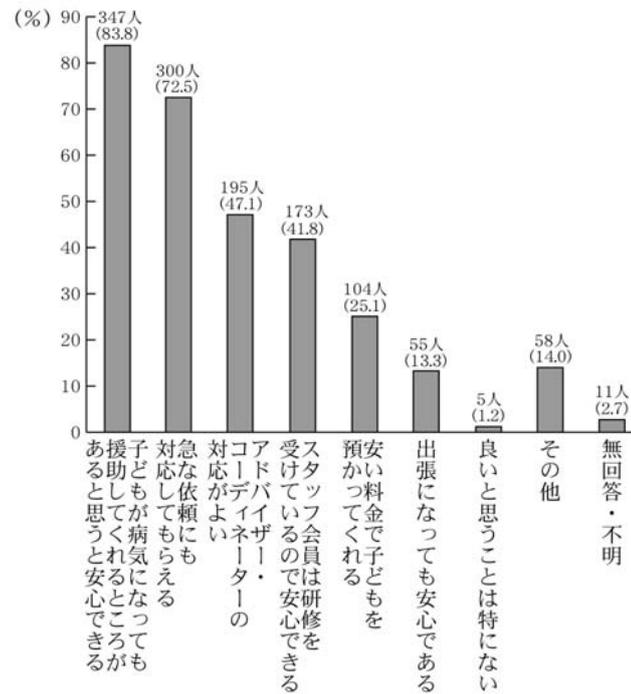
また「少し不満」は44人(10.6%)、「不満」は10人(2.4%)いたが、緊急サポートネットワーク事業の活動に対する評価は高いといえよう。

図 12 満足度



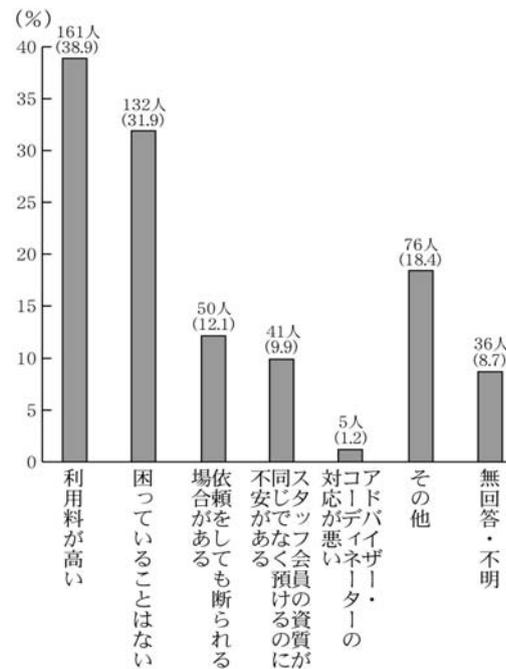
登録して良かったことは「子どもが病気になっても援助してくれるところがあると思うと安心できる」が347人(83.8%)、「急な依頼に対応してもらえる」は300人(72.5%)、「アドバイザー・コーディネーターの対応が良い」は195人(47.1%)、「スタッフ会員は研修を受けているので安心できる」は173人(41.8%)、「安い料金で対応してもらえる」が104人(25.1%)である。

図 13 登録して良いと思うこと（複数回答）



また困っていることについては、「困っていることはない」が 132 人（31.9%）であるが、一方では「利用料金が高い」と回答している人が 161 人（38.9%）いる。

図 14 困っていること（複数回答）



自由記述－緊急サポートネットワーク活動に対する意見・自由記載

最も多く寄せられたのは、急な依頼に対応してもらえた、仕事を休むことなく出勤できた、安心して仕事ができるなど緊急サポートのネットワーク事業があって本当に良かったという意見や、安心して預けることができる、また柔軟な対応をしてくれるスタッフ会員に対する感謝の声である。そして緊急サポートネットワーク事業の周知ができていないので、もっとするべきであるとの意見が寄せられた。また一方では困ったこととして利用料金が高くもう少し安くしてほしい、スタッフ会員が少ないので不安などがあった。

【よかったこと】

＜緊急サポートネットワーク事業ができて安心して仕事ができる、心にゆとりができた、本当に助かった＞など

- ・子供の病気で仕事を休む回数が増えると、社内での信用を失いがちだが、サポートを利用することで会社をほとんど休むことなく出勤することができ、信用を取り戻せた。
- ・市内に病後児保育の施設があるが、定員がいっぱいで利用できないことが何度かあった。緊急サポートネットワークにより、いざという時のために登録するところが増えたという安心感がある。
- ・この事業の存在を知ったおかげで、仕事を続けながらも出産しようと決心できた。
- ・連続した休暇が取りづらいので大変助かった。
- ・サポートネットワークがなかったら仕事を続けられなかった。本当に助かっている。共働きのため、子供の具合が悪くなった時に緊急サポートのシステムがあって本当に助かった。
- ・簡単に休める仕事ではないので、残業などの場合、援助活動を利用するととても助かる。
- ・短時間でも職場を空けるのに十分な理解が得られないので、1時間程度のサポートでも快く引き受けて下さり大変助かる。
- ・日頃から病気で保育園を休むことが多かったため、有給休暇があまり残っていなかった。サポートの利用で休む必要がなくなったので本当に良かった。

- ・登録している事で自分の中で「何があっても大丈夫」という安心があり、心が安定している。それによって子供も元気に登園している。この事業は働く女性にとっての「お守り」のようで病気の子供でも援助してもらえるのがありがたい。
- ・病児保育施設は予約制でキャンセル待ちをしなくてはならなかったが、緊急サポートは対応が早く安心できた。
- ・子供の心配をせず仕事に打ち込める
- ・登録することで安心して仕事探しや、就職ができた。
- ・いざという時に緊急サポートがあるという安心感で仕事が続けられた。
- ・女性が働く環境は本当にまだまだ確立していないため、夫婦間、社会の中における精神的な負担は目に見えないだけに大きい。それを全て包み込みサポートしてくれるのは運営者側の愛情の賜物だと思う。
- ・働き盛りの私達にとって、子供の突然の発熱や体調不良などになると、正直戸惑ってしまいます。家でゆっくり看病してあげたいけれど仕事を休むわけにもいかないので、そんな時に緊急サポートはとても頼りになります。今後もこの事業がより一層発展することを願っています。
- ・どうしても仕事を休めない時でも、子供を看てくれる方がいるので、本当にありがたく心強いです。
- ・いつでも対応してくださるので安心して仕事ができます。仕事と育児の両立がとてもしやすいです。感謝しています。
- ・夫婦共働きのため、緊急サポートのような支援ができてよかった。
- ・知り合いのいない土地で仕事を始めたいと考えていた頃に、緊急サポートのチラシを見て登録した。おかげで仕事も続けられて、感謝の気持ちでいっぱいです。この制度がなかったら、まだ仕事を再開できていなかったと思います。
- ・出産時の一時的な金銭支援より、働き続けることのできる制度がある方が、2人目、3人目を考える時より安心だということを経営にも分かっていただきたいと思う。
- ・今まで親に預けて、仕事のことを良く思われなかったり、誰にも預けられず、仕事をあきらめていた事があったので、本当に助かっています。
- ・緊急サポートをまだ利用していないが、仕事を続けていく上で、育児のサポートをしてくれる所があるというだけで安心できます。手続きも簡単にできるのがいいと思います。
- ・緊急サポートの制度がなかったら仕事を続ける事が困難だった。これからも制度のより一層の充実を望みます。

- ・仕事を持つママ達の精神的な支えとなっているので、これからも活動を継続して欲しい。
- ・緊急サポートの存在は大変心強い。もっとこのような社会資源が増えていくことを希望します。いつもありがとうございます。
- ・共働きの夫婦で、ほかにサポートしてくれる両親等が近くにいないので、何よりの強みです。今後ともよりたくさんの方が利用できるように充実させていただきたいシステムです。
- ・核家族社会の中で、このような事業に参加することで、子供は地域が輪になって育てていると強く感じます。周囲の方々には「ありがとう」といつも思っています。
- ・どこにも預けられずに悩んでいるお母さん方がたくさんいらっしゃると思います。このサービスはずっと続いて欲しいと思います。
- ・気軽に依頼することができ、実家や身内が遠い我が家にとってはとても助かっている。
- ・万が一何かあった時に、サポート会員がいると思うと心強いです。心の支えとなっており、感謝しています。
- ・子育てをしながら働くことに対して、会員になる前と比べると精神的に楽になりました。
- ・心にゆとりができた。
- ・大勢の方に支えられ子育てをしている、仕事をしているという感謝の心をもった。

<スタッフ会員に感謝・スタッフ会員と交流がもてたこと、子どもが安心できること>

- ・スタッフの心や姿勢が多くの母親を支えている。
- ・とても良い夫婦に見ていただいているので安心して仕事が出来ている。子供も馴染んでいる。
- ・サポートしてくださる会員の方がとても親切で親身になってくれる。
- ・近所の顔見知りの方が預かってくれたので安心して預けられた。
- ・スタッフから優しい言葉をかけてもらえると嬉しくて涙が出そうになる。
- ・小学校1年の娘を迎えにいつてくれた時は本当に助かった。
- ・きめ細やかに子供の面倒をみてもらえている。
- ・サポート会員の家族がアットホームな雰囲気だったので安心して頼むことができた。
- ・子供を理解しようという姿勢が見られ、子供それぞれに合った向き合い方をしてくれた。

- ・預かっている間の状況を細かく記録して報告してもらえるのでありがたい。
- ・自宅まで来てもらえて子供を看てくれるのが助かった。
- ・サポート会員が家の事情を分かってくれて柔軟な対応をしてくれた。良い方にめぐり会えた。
- ・2人の子供が同時に病気になった時にスタッフの方に子供の面倒を看ていただいた。ただ保育してもらっただけでなく、看病中のストレスも解消し、落ち着きと元気をもらえた。
- ・子育てや仕事のことについて、いろいろ相談に乗ってくれたり話を聞いてくれたりと、良いスタッフに恵まれた。
- ・育児経験者が多いのでアドバイスや相談にのってくれる。
- ・近所に子供にとって祖父母のような存在の知人ができた。
- ・同じスタッフの方に来ていただけたので、子供たちも慣れてくれて安心していった。
- ・スタッフが子供の遊び方をよく知っていると感じたので安心して利用できた。
- ・迎えに行った時、1日のスケジュールと子供の様子を詳しく記載してもらえるので、離れている間の出来事がよく分かる。
- ・助け合いの精神を持つスタッフの方が多いこと。
- ・会員の方が子供の面倒をよく看てくれて気さくな方だったので接しやすかった。
- ・日頃から忙しくご近所づきあいも無かったのが、依頼したのがきっかけでご近所づきあいができるようになった。
- ・依頼先のお宅で、子供にとっての「お姉ちゃん」「お兄ちゃん」ができたこと。
- ・子供の成長を一緒に見守ってもらえるので心強い。家族ぐるみのお付き合いができる。
- ・子供を通じて、サポート会員の方と交流が持てたこと。
- ・不登校の児童の先生がサポート会員でした。自分の子供であたふたしている自分に比べて、頭が下がる思いでした。
- ・スタッフが子育てのベテランなので安心して頼むことができる。
- ・研修を受けたサポート会員なので安心できる。
- ・投薬や症状変化の判断、食事についてもスタッフの方を信頼できる。
- ・自宅に来て看てくれることで、いつもと同じ環境下で親も子供も安心できる。
- ・1対1で看てもらえるのに安心感がある。
- ・できるだけ同じ人がサポートに入ってくれる。
- ・子供の状態をメールや電話等で細かに随時教えてもらえる。

- ・緊急サポートネットワーク主催の行事にも参加して、子育てに大切な情報が得られたり、地域の人たちとの出会いがある。
- ・子供好きの方が研修を受け、サポートしてくださるという安心感は、子供を預ける親として何よりの安心・支えとなっています。
- ・緊急サポートの利点は、慣れた自宅で看てもらえる点です。子供も病気で気弱になっているので、自宅が一番ストレスが無いと思う。
- ・育児のベテランといえる年代の女性が来てくださって、私自身とても安心してお願いできました。
- ・しつけや挨拶など、サポート会員からいろんなことを教えてもらうことで、子供が成長し賢くなっている気がする。

<急な依頼・早朝の依頼に対応してもらえてよかった、事業について>

- ・緊急連絡が取れるのが嬉しい。
- ・急に仕事が入った時に預かってもらい助かった。
- ・急な依頼にも対応してもらえることがよかった
- ・早朝の依頼にも快く対応していただき大変助かった。
- ・緊急の場合に今まで必ず対応してもらい安心感がある。
- ・急な対応や夜間の依頼でも快く対応してもらえたので心の支えになっている。
- ・お願いをすると即時に対応してくれ、FAXによる連絡が適切に行われる
- ・急な対応もしてもらえるので、会社の遅刻時間も1時間半程度で済む。
- ・病気が分かった朝の1時間前でも引き受けてくれる。
- ・時間外であってもスタッフの方が駆けつけてくれるので頼りになる。
- ・保育園からの緊急連絡に対して、保育園への迎えと通院、自宅での保育までしてもらえたので本当に助かった。
- ・24時間対応してもらえるのでありがたい。
- ・全てのスタッフが子供好きで急な依頼でも対応してもらえた。

<アドバイザー・コーディネーターに感謝>

- ・サポート会員の方が大変穏やかな方で子供も喜んでいて、事務所の方の電話の対応が良かった。
- ・預ける側の事情を理解し、できるだけ条件に合う方を紹介していただけたので助かった。

- ・コーディネーターの方が臨機応変に対応してくれる（窓口終了後も対応してくれた）。
- ・緊急サポートに関する情報提供だけでなく、他の支援についての情報や連絡先を教えてもらって助かった。
- ・コーディネーターの方々が信頼できる。レベルが高く、人間的にも素晴らしい。
- ・コーディネーターが事前にスタッフの情報を教えてくれるので、安心して預けられる。
- ・迅速に対応してもらえるので、打ち合わせ等に余計な時間を取られることがなく、感謝している。
- ・たくさんの会員が登録しているのに、電話で連絡すると子供のことを覚えていてくれたのが嬉しかった。
- ・預かって頂く方の紹介が詳しく、判断しやすかったので良かった。直接お宅に伺うこともできたのでさらに安心できた。
- ・看護師の資格を持つプロのコーディネーターが巡回してくれることで、病児を預ける不安が和らぐ。

【困ったこと】

<利用料金について>

- ・1日預けると高額になってしまう。
- ・通勤時間を含めると利用料が高くなる。
- ・利用料金をもう少し安くしてほしい。
- ・フルタイムで働いているので、1日預けると日給よりもサポート料金が高くなってしまう。
- ・利用料金の一部を国や企業から助成するような仕組みがほしい。
- ・ファミリーサポートをキャンセルし、緊急サポートに依頼するとキャンセル料がかかる。
- ・支払い金額を間違えられた。
- ・金銭のやり取りは事務局を通してもらったほうが気兼ねなくて良いと思った。
- ・預ける時間帯によって利用料金の割引設定をするなどの工夫があってほしい。
- ・時給が700円に対して、預かり料金が1,000円/1時間+交通費なので、何のために働いているのかと正直思ってしまう。補助が受けられる等の対応をしてもらえないのか。

- ・ 保育園の一時保育は 1 日 2,000 円なのに、1 時間 700 円は高い。
- ・ 1、2 時間程度預かってもらうには手ごろな料金だが、半日、1 日単位で預かってもらうには高額すぎる。低所得の家庭でも気軽に預けられるような金額にして欲しい。
- ・ 料金が 30 分単位で計算してもらえたらもっと利用しやすい。
- ・ 1 時間当たりの料金設定の他に、1 日あたりでの料金設定をしてほしい。
- ・ 子供の具合が悪くなってキャンセルした場合も、全額支払わなくてはならないので少し困る。
- ・ 母子家庭については金額を半額にしてほしい。
- ・ 認可の保育園のように、収入に応じた料金設定があると助かる。
- ・ 仕事の内容と責任を考えると料金はかえって安いと思うぐらいだが、国からの補助等でもう少し安くなってもらえればと思う。
- ・ 一人で子供を育てている場合の優遇措置やプラス α のサポートメニューがあって欲しい。

<スタッフ会員が少なく不安、スタッフ会員の資質について>

- ・ スタッフ会員が少なく、1 人の方がだめな時に頼める方がいない。
- ・ 自宅近くの預かり会員を探してもらっているが、まだ見つからないようでいざという時に不安を感じる。
- ・ サポート会員の都合が悪い場合の、第 2 候補、第 3 候補が確保できていないことが心配。
- ・ スタッフの資質に開きがあるように感じる。安心して預けられるスタッフを増やしてほしい。
- ・ 住んでいる地域により、サポート会員の数に偏りがある。
- ・ 冬など病気が多い時期は、依頼が重なったりしないかと心配している。
- ・ スタッフの数が少ないので、インフルエンザの時期などに頼めるかが心配。
- ・ 送迎を頼んだ時、頼んでいた時間より早く迎えに行き、帰宅するまでの間、自宅に上がりこんでいたことがあった。家に入って良いとは話していなかったのが不快だった。
- ・ たまにキャンセル待ちがあることがあり、改善して欲しい。
- ・ 緊急サポートなのに、依頼した時間に都合のいいサポート会員がいなかった。
- ・ 急な依頼の場合、サポート会員の到着まで時間がかかるので、仕事に遅刻しなくてはならない。

- ・今サポートして下さっている方が、万が一都合が悪くなった時、他の方が見つかるだろうかと不安になる。
- ・スタッフ会員が少ない。複数候補の方がいると安心できる。
- ・気を遣って、洗濯物を取り込んでたたんでいてくれたこと。下着類も。
- ・長時間のサポートをお願いする時、2人のサポート会員で分担することがあるので不安。
- ・依頼したとき、会員が出払っていて対応してもらえなかった。
- ・サポート会員の資質として、看護師や保育士などの資格を持ち、子供関係の現場経験のある人であってほしい。子育て経験だけでは、たとえ研修を受けたとしても信頼し難い。
- ・スタッフの人によって能力の差がある。経験の浅いスタッフの人は、預けてみてから分かるので困ることがある。
- ・子供を預ける前に、資格の有無やどれぐらい経験があるか教えて欲しい。
- ・スタッフ会員の対応について、個人差がかなりあると感じることがある。スタッフ会員を依頼する側で選べるようになってほしい。
- ・スタッフの人数が少ないため、いつもお願いしているサポート会員の都合が悪いと依頼ができない。

<事務所開設時間外の対応について、同じスタッフ会員に見てもらいたい>

- ・何歳までの託児が必要かは、家庭の事情によって異なることなので、特に年齢の上限を設けずに預けられるようになってほしい。
- ・事務所の対応する時間（8：00～17：30）内でないと連絡が取れなかった。
- ・事業所が休みの時でも、本人同士が了解を取れば、サポート活動ができるようにしてほしい。
- ・夜に電話したところ、繋がらず留守番電話になったこと。
- ・連絡してから来てもらうまでの時間がもう少し短縮されるとありがたい。
- ・登録してサポート会員の方と会うまで、こちらが連絡しないとなかなかマッチングできなかった。登録後がどうなっているのか良く分からず困ったことがあった。
- ・お盆・お正月などの休日に対応してもらえる方が増えて欲しい。
- ・週末や時間外に連絡が取れないのが困る。
- ・できるだけ同じ人に預かってもらいたい。
- ・緊急な場合をお願いするので、返答に時間がかかるととても不安になる。

- ・緊急サポートなのですぐに対応してもらえるとと思っていたが、前日にお願いしないとサポートが難しそう。
- ・事務所の営業時間中に問い合わせをしても、話し中で繋がらないことが多く、依頼報告がし難い。
- ・電話の受付時間がもう少し長ければ良い。
- ・預け先にも子どもがいる為、流行病などの長期で休みが必要な時に、預かってもらえなかったこと。
- ・年に1、2回ぐらい、利用者もしくは利用したい方を対象に説明会のような場を設けてほしい。
- ・開設時間が7：30からなので、出勤時間に間に合わない。
- ・援助会員が多忙なので、いつも同じ方に依頼できるか不安。
- ・連日依頼するときも、毎日違う人が来ると子供のストレスになる。
- ・依頼した時、サポート会員の都合がつかず、午前と午後で違うサポート会員と違う場所での保育を打診された。しかし、体調の悪い子をそのような状況で預けるのに抵抗があり、断ってしまった。
- ・初対面の時は、会員証を提示していただくなど、身分を明らかにするような工夫をしてほしい。
- ・携帯サイトで予約ができたならよいと感じた。
- ・深夜や早朝の依頼は気がひける。
- ・サポート会員から返信の電話がなかったり、連絡しても出なかったりしたことがある。
- ・何度となく電話したり、留守電に伝言を残したりしたが、不通だったり、返事が休日明けだったりして、緊急の対応をしてもらえなかった。

【感想】

<もっと広報をしてほしい>

- ・この事業をもっと広めてほしい。お母さん達が安心して働けるように援助してほしい。
- ・同じ職場のママさん達でもこの制度を知らない人が多い。この事業について広く宣伝してはどうでしょうか。
- ・預かり会員がもう少し増えるように広報活動をして頂きたい。ファミリーサポート

- の講習会・研修会などで積極的に宣伝して欲しい。
- ・就職活動中でも登録できる点をもっとPRして、働きたいけど迷っている人達の後押しになると良いと思う。
 - ・保育園を通じた緊急サポートに関する広報に力を入れて欲しい。まだこの事業を知らない親御さんにも利用のチャンスを与えて欲しい。
 - ・他の都道府県でも困っているお母さんがたくさんいるので、知名度を上げていろんなところで助けてあげてほしい。
 - ・とても良い事業だと思いますので、今後とも続けて欲しいと思います。事業の告知など、もう少し工夫した方が良いと思います。必要な人に情報が届いていない気がします。
 - ・職業安定所で仕事を探している際にチラシでこの事業を知った。全く知らなかったので教えてもらえて助かった。
 - ・この事業について、もっとPRしてほしい。このアンケート調査結果についても公表してほしい。
 - ・預かり会員が増えるように、広報活動をしてほしい。ファミリーサポートの講習会・研修会などで積極的に宣伝してほしい。
 - ・同じ職場のママさんでもこの事業を知らないなので、広く宣伝してほしい。
 - ・とても良い事業で、男女共同参画のためには欠かせないと思う。町ぐるみの活動として、地域の防犯対策の一環として、各自治体におけるアナウンスの強化が必要ではないかと思う。また、利用会員予備軍に対しては、出産時の資料一式に入れていただき、保育園には常時置いておくべきだと思う。
 - ・現在は「おねがい会員」として利用するばかりですが、将来は恩返しをしようと夫婦で話し合っています。
 - ・今後もサポート会員さんの力を時にはお借りしながら、仕事に子育てに頑張りたいと思います。
 - ・働く母親をサポートしてくれる病児保育所や緊急の事業所へのサポートを行政に積極的にしてもらいたい。スタッフの心身にかかる重圧は大きいと思う。いつか必ず私もサポートする立場になりたい。
 - ・リタイアしたら私もスタッフに登録して、子育て世代の家庭をサポートしたいと思っています。
 - ・この事業で病気の子供の預かりをするのであれば、預かる人たちを看護師・保健師などを核としたグループにして、医療機関ともタイアップしていくべき。様々なケ

ースについて、グループで協議する場が必要だと思う。

- ・子供たちにとって、親以外の優しい大人の存在ができて、親じゃないからこそ何でも話せたり、ワンクッション置いて見てもらえる大人ができたことがとても良かったです。
- ・遠い将来は、自分も同じようにサポーターとして、働く女性を支援していきたいと思うようになりました。

Ⅲ 集 計 表

1. 緊急サポートネットワーク事業実施団体

表 1.1 団体の概要

表 1.1-1 事業受託年度

平成 17 年度	24 団体 (64.9%)
平成 18 年度	13 団体 (35.1%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.1-2 運営方法

本部のみ	14 団体 (37.8%)
本部のみ+再委託あり	8 団体 (21.6%)
本部のみ+支部あり	12 団体 (32.4%)
本部のみ+再委託あり+支部あり	2 団体 (5.4%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.1-3 再委託先の箇所数

1 箇所	4 団体 (40.0%)
2 箇所	2 団体 (20.0%)
3 箇所	3 団体 (30.0%)
6 箇所	1 団体 (10.0%)
計	10 団体 (100.0%)

表 1.1-4 支部の箇所数

1 箇所	4 団体 (28.6%)
2 箇所	2 団体 (14.3%)
3 箇所	2 団体 (14.3%)
4 箇所	2 団体 (14.3%)
5 箇所	1 団体 (7.1%)
7 箇所	1 団体 (7.1%)
9 箇所	1 団体 (7.1%)
10 箇所以上	1 団体 (7.1%)
計	14 団体 (100.0%)

表 1.1-5 アドバイザーの人数（複数回答）

1人	22 団体 (59.5%)
2人	8 団体 (21.6%)
3人	3 団体 (8.1%)
4人	0 団体 (0.0%)
5人	0 団体 (0.0%)
6人	1 団体 (2.7%)
無回答・不明	3 団体 (8.1%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.1-6 アドバイザーの仕事の内容（複数回答）

受託のための事業計画・予算作成、決算・事業報告	31 団体 (83.8%)
チラシ・会則等活動に必要な書類作成	33 団体 (89.2%)
事業の周知	33 団体 (89.2%)
ネットワーク会議開催	34 団体 (91.9%)
スタッフ研修会開催	32 団体 (86.5%)
会員登録	18 団体 (48.6%)
マッチング	13 団体 (35.1%)
その他	12 団体 (32.4%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.1-7 コーディネーターの人数

1人	7 団体 (18.9%)
2人	7 団体 (18.9%)
3人	4 団体 (10.8%)
4人	3 団体 (8.1%)
5人	1 団体 (2.7%)
6～10人	2 団体 (5.4%)
11人以上(96人)	1 団体 (2.7%)
無回答・不明	12 団体 (32.4%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.1-8 コーディネーターの仕事の内容（複数回答）

チラシ・会則等相互援助活動に必要な書類作成	19 団体 (51.4%)
事業の周知	25 団体 (67.6%)
ネットワーク会議開催	11 団体 (29.7%)
スタッフ研修会開催	20 団体 (54.1%)
会員登録	25 団体 (67.6%)
マッチング	24 団体 (64.9%)
その他	11 団体 (29.7%)
無回答・不明	2 団体 (5.4%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.2 事業の周知

表 1.2-1 会員獲得のため広報をした場所

自治体の子育て支援課等	37 団体 (100.0%)
郡市区社会福祉協議会	32 団体 (86.5%)
ファミリー・サポート・センター	34 団体 (91.9%)
保育園・幼稚園	34 団体 (91.9%)
小学校	16 団体 (43.2%)
放課後児童クラブ	24 団体 (64.9%)
企業・事業所	25 団体 (67.6%)
保健所（6ヶ月健診等）	22 団体 (59.5%)
ハローワーク・マザーズハローワーク	27 団体 (73.0%)
病児保育室	24 団体 (64.9%)
地域の活動団体	30 団体 (81.1%)
その他	28 団体 (75.7%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.3 会員について

表 1.3-1 事業開始年度別会員数（合計）

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年 6 月末現在
利用会員	3,050 人 (70.6%)	5,970 人 (61.5%)	7,191 人 (63.1%)
スタッフ会員	1,221 人 (28.2%)	3,516 人 (36.2%)	3,960 人 (34.7%)
両方会員	52 人 (1.2%)	215 人 (2.2%)	252 人 (2.2%)
計	4,323 人 (100.0%)	9,701 人 (100.0%)	11,403 人 (100.0%)

表 1.3-2 会員の年齢

	利用会員	スタッフ会員	両方会員	合計
30歳未満	1,146人 (15.9%)	171人 (4.3%)	26人 (10.3%)	1,343人 (11.8%)
30歳～39歳	4,895人 (68.1%)	617人 (15.6%)	149人 (59.1%)	5,661人 (49.6%)
40歳～49歳	1,004人 (14.0%)	1,059人 (26.7%)	64人 (25.4%)	2,127人 (18.7%)
50歳～59歳	41人 (0.6%)	1,114人 (28.1%)	1人 (0.4%)	1,156人 (10.1%)
60歳以上	9人 (0.1%)	610人 (15.4%)	1人 (0.4%)	620人 (5.4%)
無回答	96人 (1.3%)	389人 (9.8%)	11人 (4.4%)	496人 (4.3%)
計	7,191人 (100.0%)	3,960人 (100.0%)	252人 (100.0%)	11,403人 (100.0%)

表 1.3-3 スタッフ会員の中の看護師・保健師、保育士・幼稚園教諭の数

看護師・保健師	374人 (9.4%)
保育士・幼稚園教諭	1,425人 (36.0%)
上記の資格なし	2,161人 (54.6%)
計	3,960人 (100.0%)

表 1.4 活動について

表 1.4-1 4～6月までの活動件数と開設時間外の依頼の活動件数

	平成 17 年度	平成 18 年度
病児・病後児の預かり	169件 (50.4%)	1,416件 (24.7%)
宿泊を伴う預かり	34件 (10.1%)	210件 (0.4%)
緊急度の高い保育所等への送迎や預かり	96件 (28.7%)	1,775件 (30.9%)
その他	36件 (10.7%)	2,430件 (42.3%)
計	335件 (100.0%)	5,742件 (100.0%)

	平成 19 年 4 月～6 月 までの活動件数	開設時間外の 活動件数
病児・病後児の預かり	1,083件 (33.1%)	226件 (22.8%)
宿泊を伴う預かり	154件 (4.7%)	55件 (5.6%)
緊急度の高い保育所等への送迎や預かり	1,181件 (36.1%)	392件 (39.6%)
その他	855件 (26.1%)	317件 (32.0%)
計	3,273件 (100.0%)	990件 (100.0%)

表 1.4-2 4～6月までの活動で17時以降の活動の有無

ある	30 団体 (81.1%)
ない	3 団体 (8.1%)
無回答・不明	4 団体 (10.8%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.4-3 4～6月までの活動で17時以降の活動件数

18：00 までの間	470 件 (33.2%)
19：00 までの間	349 件 (24.7%)
20：00 までの間	241 件 (17.0%)
21：00 までの間	149 件 (10.5%)
21：00 以降	207 件 (14.6%)
計	1,416 件 (100.0%)

表 1.4-4 4～6月までの活動で土・日・祝日の援助の有無

ある	25 団体 (67.6%)
ない	8 団体 (21.6%)
無回答・不明	4 団体 (13.5%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.4-5 土・日・祝日の援助件数

1 回	3 団体 (12.0%)
2 回	4 団体 (16.0%)
3 回	1 団体 (4.0%)
4～5 回	2 団体 (8.0%)
6～10 回	6 団体 (24.0%)
11～20 回	4 団体 (16.0%)
21 回以上	4 団体 (16.0%)
無回答・不明	1 団体 (4.0%)
計	25 団体 (100.0%)

表 1.5 スタッフ会員の研修

表 1.5-1 都道府県内の研修実施

本部のみで実施	25 団体 (67.6%)
再委託先のみで実施	2 団体 (5.4%)
本部・再委託先で実施	10 団体 (27.0%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.5-2 看護師・保育士に対し研修受講の義務

義務づけしている	30 団体 (81.1%)
義務づけしていない	5 団体 (13.5%)
無回答・不明	2 団体 (5.4%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.6 マッチングについて

表 1.6-1 マッチングの実施場所

本部のみ	15 団体 (40.5%)
支部のみ	3 団体 (8.1%)
再委託先のみ	7 団体 (18.9%)
本部・支部	8 団体 (21.6%)
本部・再委託先	1 団体 (2.7%)
支部・再委託先	2 団体 (5.4%)
本部・支部・再委託先	0 団体 (0.0%)
無回答・不明	1 団体 (2.7%)
計	37 団体 (100.0%)

表 1.6-2 開設時間外の対応状況

転送電話でアドバイザー・コーディネーターの携帯電話につながる	16 団体 (66.7%)
会員のみアドバイザー・コーディネーターの携帯番号を教えている	8 団体 (33.3%)
会員間で対応できるものはしている	6 団体 (25.0%)
その他	6 団体 (25.0%)
計	24 団体 (100.0%)

表 1.6-3 利用会員の依頼に対する実施状況（複数回答）

依頼の都度アドバイザー等が依頼内容を聞き取りスタッフ会員を紹介する	7 団体 (29.2%)
依頼があると、アドバイザー・コーディネーターはあらかじめ事前打ち合わせをすませているスタッフ会員に連絡する	17 団体 (70.8%)
利用会員は援助を求めたい時、あらかじめ事前打ち合わせをしているスタッフ会員に直接連絡し、活動が決まってから会員から団体へ報告する	11 団体 (45.8%)
その他	1 団体 (4.2%)
計	24 団体 (100.0%)

2. スタッフ会員調査結果

表 1.1 性別、年齢

表 1.1-1 性別

女性	537 人 (97.6%)
男性	11 人 (2.0%)
無回答・不明	2 人 (0.4%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.1-2 年齢

20 歳代	14 人 (2.5%)
30 歳代	70 人 (12.7%)
40 歳代	156 人 (28.4%)
50 歳代	184 人 (33.5%)
60 歳代	112 人 (20.4%)
70 歳代	12 人 (2.2%)
無回答・不明	2 人 (0.4%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.2 同居しているご家族について

表 1.2-1 同居している家族 詳細

配偶者	111 人 (20.2%)
配偶者+子ども	225 人 (40.9%)
配偶者+親+子ども	83 人 (15.1%)
親+子ども	7 人 (1.3%)
子ども	51 人 (9.3%)
親	10 人 (1.8%)
その他	37 人 (6.7%)
同居の家族はいない	25 人 (4.5%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.2-2 同居している子どもの年齢について (複数回答)

就学前	60 人 (15.8%)
小学生	115 人 (30.3%)
中学生以上	292 人 (76.8%)
無回答・不明	1 人 (0.3%)
計	380 人 (100.0%)

表 1.2-3 同居している子どもの年齢

中学生以上	234 人 (61.6%)
中学生以上+小学生	47 人 (12.4%)
小学生	38 人 (10.0%)
小学生+就学前	24 人 (6.3%)
就学前	25 人 (6.6%)
中学生以上+就学前	5 人 (1.3%)
中学生以上+小学生+就学前	6 人 (1.6%)
無回答・不明	1 人 (0.3%)
計	380 人 (100.0%)

表 1.3 援助活動以外の仕事について

表 1.3-1 スタッフ会員としての援助活動以外の仕事の有無

あり	369 人 (67.1%)
なし	181 人 (32.9%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.3-2 仕事をしている時間

10 時間まで	146 人 (39.6%)
10 時間以上～20 時間未満	83 人 (22.5%)
20 時間以上～30 時間未満	65 人 (17.6%)
30 時間以上～40 時間未満	34 人 (9.2%)
40 時間以上	41 人 (11.1%)
計	369 人 (100.0%)

表 1.4 緊急サポートネットワーク事業について

表 1.4-1 緊急サポートネットワーク事業を知ったきっかけ

ポスター・チラシ	88 人 (16.0%)
テレビ・新聞・雑誌	87 人 (15.8%)
友人・知人の口コミ	118 人 (21.5%)
ファミリー・サポート・センター	169 人 (30.7%)
その他	86 人 (15.6%)
無回答・不明	2 人 (0.4%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.4-2 スタッフ会員になった理由

持っている資格を生かしたいため	92 人 (16.7%)
働いている親への援助をしたかったから	240 人 (43.6%)
収入になるため	21 人 (3.8%)
社会参加したかったから	53 人 (9.6%)
育児の経験を生かすことができる	94 人 (17.1%)
その他	47 人 (8.5%)
無回答・不明	3 人 (0.5%)
計	550 人 (100.0%)

表 1.4-3 会員になってからの期間・援助回数

	人数	援助回数
3ヶ月以内	51 人 (9.3%)	90 回 (1.4%)
3～6ヶ月以内	77 人 (14.0%)	560 回 (8.7%)
6ヶ月～1年以内	162 人 (29.5%)	1,179 回 (18.4%)
1年～1年6ヶ月以内	152 人 (27.6%)	2,162 回 (33.7%)
1年6ヶ月以上	107 人 (19.5%)	2,433 回 (37.9%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)	0 回 (0.0%)
計	550 人 (100.0%)	6,424 回 (100.0%)

表 1.4-4 病児・病後児の預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数 (土・日・祝日)	295 人 (53.6%)	(64 人)
援助を行った回数 (土・日・祝日)	1,797 回 (28.0%)	(135 回)

表 1.4-5 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	74 人 (25.1%)	33 人 (51.6%)
「2回」	50 人 (16.9%)	15 人 (23.4%)
「3～5回」	81 人 (27.5%)	13 人 (20.3%)
「6～10回」	53 人 (18.0%)	3 人 (4.7%)
「11～20回」	21 人 (7.1%)	0 人 (0.0%)
「21～50回」	14 人 (4.7%)	0 人 (0.0%)
「50回以上」	2 人 (0.7%)	0 人 (0.0%)
計	295 人 (100.0%)	64 人 (100.0%)

表 1.4-6 宿泊を伴う預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	43人(7.8%)	(24人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	205回(3.2%)	(72回)

表 1.4-7 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	18人(41.9%)	12人(50.0%)
「2回」	6人(14.0%)	3人(12.5%)
「3～5回」	10人(23.3%)	7人(29.2%)
「6～10回」	4人(9.3%)	1人(4.2%)
「11回以上」	5人(11.6%)	1人(4.2%)
計	43人(100.0%)	24人(100.0%)

表 1.5 緊急時の送迎や預かり

表 1.5-1 緊急時の保育所等への送迎や預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	239人(43.5%)	(56人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	1,816回(28.3%)	(174回)

表 1.5-2 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	79人(33.1%)	27人(48.2%)
「2回」	29人(12.1%)	13人(23.2%)
「3～5回」	58人(24.3%)	7人(12.5%)
「6～10回」	38人(15.9%)	4人(7.1%)
「11回以上」	35人(14.6%)	5人(8.9%)
計	239人(100.0%)	56人(100.0%)

表 1.5-3 17:00以降の預かりについて

ある	279人(50.7%)
ない	228人(41.5%)
無回答・不明	43人(7.8%)
計	550人(100.0%)

表 1.5-4 時間帯別回数（複数回答）

	人数・回数	土・日・祝日
18：00 まで	118 人（42.3%）	950 回（40.3%）
19：00 まで	121 人（43.4%）	560 回（23.7%）
20：00 まで	84 人（30.1%）	422 回（17.9%）
21：00 まで	60 人（21.5%）	249 回（10.6%）
21：00 以降	43 人（15.4%）	178 回（7.5%）
計	279 人（100.0%）	2,359 回（100.0%）

表 1.5-5 「病児・病後児の預かり」の援助方法（複数回答）

保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもをあなたの自宅で預かった	174 人（59.0%）
保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもを利用会員宅で預かった	108 人（36.6%）
あなたが医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	35 人（11.9%）
あなたが医療機関に連れて行き受診後、利用会員自宅で預かった	35 人（11.9%）
あなたが医療機関に連れて行き受診後、病児保育施設へ連れて行った	16 人（5.4%）
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	23 人（7.8%）
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、利用会員宅で預かった	15 人（5.1%）
その他	31 人（10.5%）
無回答・不明	18 人（6.1%）
計	295 人（100.0%）

表 1.5-6 緊急サポートネットワーク事業に対する満足度

大いに満足	45 人（8.2%）
満足	338 人（61.5%）
少し不満	103 人（18.7%）
不満	19 人（3.5%）
無回答・不明	45 人（8.2%）
計	550 人（100.0%）

表 1.5-7 活動のよい点（複数回答）

利用会員に感謝され、やりがいを感じる	402 人 (73.1%)
研修で育児に関する知識や技術を身につけることができる	242 人 (44.0%)
研修で子どもの病気についての知識を身につけることができる	191 人 (34.7%)
育児の経験を生かすことができる	346 人 (62.9%)
報酬をもらえる	246 人 (44.7%)
援助している子どもとのふれあいが楽しい	397 人 (72.2%)
その他	55 人 (10.0%)
特に良いと思うことはない	7 人 (1.3%)
無回答・不明	13 人 (2.4%)
計	1,899 人 (100.0%)

表 1.5-8 困っていること（複数回答）

依頼が少ない	172 人 (31.3%)
病気の子どもの預かるので不安がある	172 人 (31.3%)
子どもがなつかない	8 人 (1.5%)
利用会員に信頼されていない気がする	3 人 (0.5%)
講習内容が十分でなく、援助活動するのに不安である	17 人 (3.1%)
報酬が少ない	24 人 (4.4%)
アドバイザー・コーディネーターに相談しづらい	7 人 (1.3%)
アドバイザー・コーディネーターからの話しと利用会員の依頼に食い違いがある	7 人 (1.3%)
その他	68 人 (12.4%)
特に困っていることはない	237 人 (43.1%)
無回答・不明	27 人 (4.9%)
計	742 人 (100.0%)

3. 利用会員調査結果

表 1.1 性別、年齢

表 1.1-1 性別

女性	390 人 (94.2%)
男性	23 人 (5.6%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-2 年齢

20～24 歳	6 人 (1.4%)
25～29 歳	53 人 (12.8%)
30～34 歳	136 人 (32.9%)
35～39 歳	124 人 (30.0%)
40～44 歳	75 人 (18.1%)
45 歳以上	20 人 (4.8%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-3 仕事の形態

フルタイムで勤務している	250 人 (60.4%)
パートタイムで勤務している	106 人 (25.6%)
自営業	23 人 (5.6%)
その他	30 人 (7.2%)
無回答・不明	5 人 (1.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-4 勤務形態

日中の通常勤務	302 人 (84.8%)
早朝のみ又は早朝を含んだ勤務	14 人 (3.9%)
深夜のみ又は深夜を含んだ勤務	1 人 (0.3%)
交替制勤務（早朝・深夜勤務あり）	23 人 (6.5%)
交替制勤務（早朝・深夜勤務なし）	7 人 (2.0%)
その他	8 人 (2.2%)
無回答・不明	1 人 (0.3%)
計	356 人 (100.0%)

表 1.1-5 早出や残業

ほとんどない	130 人 (43.0%)
月に 3~4 回程度	78 人 (25.8%)
月に 10 回程度	47 人 (15.6%)
月に 15 回以上	43 人 (14.2%)
無回答・不明	4 人 (1.3%)
計	302 人 (100.0%)

表 1.1-6 土・日・祝祭日の出勤

ほとんどない	132 人 (43.7%)
月に 1~2 回程度	93 人 (30.8%)
月に 3~4 回程度	62 人 (20.5%)
月に 5~6 回以上	10 人 (3.3%)
月に 7 回以上	3 人 (1.0%)
無回答・不明	2 人 (0.7%)
計	302 人 (100.0%)

表 1.1-7 同居している家族 詳細

子ども	48 人 (11.6%)
子ども+配偶者	317 人 (76.6%)
子ども+配偶者+親	23 人 (5.6%)
子ども+配偶者+親+その他	5 人 (1.2%)
子ども+配偶者+その他	1 人 (0.2%)
子ども+親	16 人 (3.9%)
子ども+親+その他	3 人 (0.7%)
子ども+その他	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-8 同居している子どもの数

1 人	198 人 (47.8%)
2 人	161 人 (38.9%)
3 人	47 人 (11.4%)
4 人	6 人 (1.4%)
5 人以上	1 人 (0.2%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-9 同居している子どもの年齢

就学前	257 人 (62.1%)
小学生	43 人 (10.4%)
中学生以上	1 人 (0.2%)
就学前+小学生	86 人 (20.8%)
就学前+小学生+中学生以上	7 人 (1.7%)
就学前+中学生以上	6 人 (1.4%)
小学生+中学生以上	13 人 (3.1%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-10 登録している子どもの数

1 人	236 人 (57.0%)
2 人	145 人 (35.0%)
3 人	30 人 (7.2%)
4 人	2 人 (0.5%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-11 登録している子どもの年齢 (複数回答)

0 歳	41 人 (9.9%)
1 歳～3 歳	245 人 (59.2%)
4 歳～就学前	146 人 (35.3%)
小学校低学年	121 人 (29.2%)
小学校高学年	27 人 (6.5%)
中学生以上	4 人 (1.0%)
無回答・不明	2 人 (0.5%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-12 同居の家族以外に緊急時の預かりを頼める人の有無

いる	203 人 (49.0%)
いない	210 人 (50.7%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-13 同居家族以外の緊急時依頼のできる人

あなたの親・配偶者の親	136 人 (67.0%)
親戚	20 人 (9.9%)
友人・知人・近所の人など上記 1・2 以外の人	47 人 (23.2%)
計	203 人 (100.0%)

表 1.1-14 登録場所の有無

ある	252 人 (60.9%)
ない	160 人 (38.6%)
無回答・不明	2 人 (0.5%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.1-15 緊急時預かりのための登録場所（複数回答）

ファミリー・サポート・センター	177 人 (70.2%)
病児保育施設	108 人 (42.9%)
民間のベビーシッター	35 人 (13.9%)
その他	28 人 (11.1%)
無回答・不明	2 人 (0.8%)
計	252 人 (100.0%)

表 1.2 事業について

表 1.2-1 利用会員になったきっかけ

ポスター・チラシ	150 人 (36.2%)
テレビ・新聞・雑誌	53 人 (12.8%)
友人・知人の口コミ	87 人 (21.0%)
その他	122 人 (29.5%)
無回答・不明	2 人 (0.5%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.2-2 会員になってからの期間・援助回数

	人数	援助回数
3ヶ月以内	67 人 (16.2%)	184 回 (6.7%)
3ヶ月以上～6ヶ月以内	105 人 (25.4%)	445 回 (16.2%)
6ヶ月以上～1年以内	109 人 (26.3%)	947 回 (34.5%)
1年以上～1年6ヶ月以内	87 人 (21.0%)	772 回 (28.1%)
1年6ヶ月以上	45 人 (10.9%)	399 回 (14.5%)
無回答・不明	1 人 (0.2%)	0 回 (0.0%)
計	414 人 (100.0%)	2,747 回 (100.0%)

表 1.2-3 病児・病後児の預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	210人(50.7%)	(26人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	923回(33.6%)	(50回)

表 1.2-4 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	60人(28.6%)	16人(61.5%)
「2回」	41人(19.5%)	3人(11.5%)
「3～5回」	60人(28.6%)	6人(23.1%)
「6～10回」	39人(18.6%)	1人(3.8%)
「11～20回」	7人(3.3%)	0人(0.0%)
「21～50回」	2人(1.0%)	0人(0.0%)
「50回以上」	1人(0.5%)	0人(0.0%)
計	210人(100.0%)	26人(100.0%)

表 1.2-5 宿泊を伴う預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	8人(1.9%)	(3人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	50回(1.8%)	(8回)

表 1.2-6 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	4人(50.0%)	1人(33.3%)
「2回」	3人(37.5%)	1人(33.3%)
「3～5回」	0人(0.0%)	1人(33.3%)
「6～10回」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
「11～20回」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
「21～50回」	1人(12.5%)	0人(0.0%)
「50回以上」	0人(0.0%)	0人(0.0%)
計	8人(100.0%)	3人(100.0%)

表 1.3 緊急時の送迎や預かり

表 1.3-1 緊急時の保育所等への送迎や預かり

	人数・回数	(土・日・祝日)
援助を行った人数(土・日・祝日)	135人(32.6%)	(17人)
援助を行った回数(土・日・祝日)	809回(29.5%)	(53回)

表 1.3-2 1人あたりの援助回数

	人数・回数	土・日・祝日
「1回」	52人(38.5%)	7人(41.2%)
「2回」	22人(16.3%)	5人(29.4%)
「3～5回」	29人(21.5%)	2人(11.8%)
「6～10回」	19人(14.1%)	3人(17.6%)
「11～20回」	7人(5.2%)	0人(0.0%)
「21～50回」	5人(3.7%)	0人(0.0%)
「50回以上」	1人(0.7%)	0人(0.0%)
計	135人(100.0%)	17人(100.0%)

表 1.3-3 17:00以降の援助の有無

ある	218人(52.7%)
ない	171人(41.3%)
無回答・不明	25人(6.0%)
計	414人(100.0%)

表 1.3-4 時間帯別回数(複数回答)

	人数・回数	土・日・祝日
18:00まで	101人(46.3%)	458回(36.6%)
19:00まで	70人(32.1%)	475回(38.0%)
20:00まで	40人(18.3%)	200回(16.0%)
21:00まで	22人(10.1%)	56回(4.5%)
21:00以降	15人(6.9%)	61回(4.9%)
無回答・不明	16人(7.3%)	0回(0.0%)
計	218人(100.0%)	1,250回(100.0%)

表 1.3-5 事務所開設時間外の援助依頼について

ある	130 人 (31.4%)
ない	274 人 (66.2%)
無回答・不明	10 人 (2.4%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.3-6 事務所開設時間外の援助依頼回数

「1 回」	38 人 (29.2%)
「2 回」	32 人 (24.6%)
「3～5 回」	32 人 (24.6%)
「6～10 回」	9 人 (6.9%)
「11～20 回」	2 人 (1.5%)
無回答・不明	17 人 (13.1%)
計	130 人 (100.0%)

表 1.3-7 事務所開設時間外の対応状況

すべて対応してもらった	112 人 (86.2%)
断られたこともある	15 人 (11.5%)
すべて断られた	2 人 (1.5%)
無回答・不明	1 人 (0.8%)
計	130 人 (100.0%)

表 1.3-8 キャンセルの有無

ある	128 人 (30.9%)
ない	278 人 (67.1%)
無回答・不明	8 人 (1.9%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.3-9 キャンセルの理由（複数回答）

	人数・回数
子どもの具合がよくなったため	45 人 (35.2%)
出張が取りやめになったため	7 人 (5.5%)
残業がなくなったため	23 人 (18.0%)
他に見てくれる人が見つかったため	39 人 (30.5%)
その他	31 人 (24.2%)
無回答・不明	2 人 (1.6%)
計	128 人 (100.0%)

表 1.3-10 依頼を断られたことの有無

ある	59 人 (14.3%)
ない	340 人 (82.1%)
無回答・不明	15 人 (3.6%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.3-11 依頼を断られた回数

「1 回」	27 人 (45.8%)
「2 回」	14 人 (23.7%)
「3～5 回」	10 人 (16.9%)
無回答・不明	8 人 (13.6%)
計	59 人 (100.0%)

表 1.3-12 依頼を断られた時の対応（複数回答）

	人数・回数
自分が仕事を休んだ	35 人 (59.3%)
同居の家族に頼んだ	11 人 (18.6%)
別居の家族に頼んだ	14 人 (23.7%)
ベビーシッター等に頼んだ	7 人 (11.9%)
その他	16 人 (27.1%)
無回答・不明	0 人 (0.0%)
計	59 人 (100.0%)

表 1.4 活動に対する評価

表 1.4-1 緊急サポートネットワーク事業に対する満足度

大いに満足	112 人 (27.1%)
満足	238 人 (57.5%)
少し不満	44 人 (10.6%)
不満	10 人 (2.4%)
無回答・不明	10 人 (2.4%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.4-2 登録して良いと思うこと（複数回答）

子どもが病気になっても援助してくれるところがあると安心してできる	347 人 (83.8%)
安い料金で子どもを預かってくれる	104 人 (25.1%)
急な依頼にも対応してもらえる	300 人 (72.5%)
出張になっても安心である	55 人 (13.3%)
スタッフ会員は研修を受けているので安心できる	173 人 (41.8%)
アドバイザー・コーディネーターの対応がよい	195 人 (47.1%)
その他	58 人 (14.0%)
良いと思うことは特にない	5 人 (1.2%)
無回答・不明	11 人 (2.7%)
計	414 人 (100.0%)

表 1.4-3 困っていること（複数回答）

スタッフ会員の資質が同じでなく預けるのに不安がある	41 人 (9.9%)
依頼をしても断られる場合がある	50 人 (12.1%)
利用料が高い	161 人 (38.9%)
アドバイザー・コーディネーターの対応が悪い	5 人 (1.2%)
その他	76 人 (18.4%)
困っていることはない	132 人 (31.9%)
無回答・不明	36 人 (8.7%)
計	414 人 (100.0%)

Ⅳ 平成19年度緊急サポートネットワーク事業活動状況調査票

平成19年度緊急サポートネットワーク事業活動状況調査

団体調査

財団法人女性労働協会

記入にあたってのお願い

- ・調査時期 特にことわりのない限り、平成19年6月30日現在の状況についてお答えください。
 - ・記入方法 ・原則として該当する番号1つに○をつけてください。ただし別に指示がある場合はその指示に従ってご回答ください。
 - ・返送方法 ・ご記入後の調査票は返信用封筒に入れ、7月31日までに（財）女性労働協会へご返送ください。
- ※問い合わせ先 この調査についてご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420
 (財)女性労働協会 担当 辻村
 e-mail : hontai@jaaww.or.jp

団体名	
事業名称	
本部所在地	〒
TEL	-----
FAX	-----
URL	-----
記入者名	氏名 (あてはまる番号に○をつけてください) 役職 1 アドバイザー・コーディネーター 2 その他(具体的に)
事業受託年度	平成 年度
相互援助活動 (以下活動という) 開始年月日	平成 年 月
運営方法	(あてはまる番号すべてに○をつけ箇所数をご記入下さい) 1 本部のみ 2 再委託あり → 箇所 3 支部あり → 箇所

I アドバイザー・コーディネーターについて（予算でアドバイザー・コーディネーターとなっている人）

問1 人数・勤務日数・仕事の内容についてお伺いいたします。

(1) アドバイザーの人数によりその方の週の勤務日数をご記入ください。

(例：2人の場合) 日 と 日 に 5日 と 4日 のように、また5人以上の場合はその人数と 日 を作ってください。

1 人	→	<input type="text"/> 日							
2 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日					
3 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日			
4 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	
人	→	<input type="text"/> 日	と <input type="text"/> 日						

(2) アドバイザーの仕事の内容について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

受託のための事業計画・予算作成、決算・事業報告	1
チラシ・会則等活動に必要な書類作成	2
事業の周知	3
ネットワーク会議開催	4
スタッフ研修会開催	5
会員登録	6
マッチング	7
その他（できるだけくわしくご記入ください）	8

(3) コーディネーターの人数によりその方の週の勤務日数をご記入ください。記入方法は上記①と同じです。

また、いない場合は0人のところに○をつけてください。

1 人	→	<input type="text"/> 日							
2 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日					
3 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日			
4 人	→	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	と	<input type="text"/> 日	
人	→	<input type="text"/> 日	と <input type="text"/> 日						

問3 これまでネットワーク会議に参加した関係機関を教えてください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

都道府県の子育て担当課	1
自治体の子育て担当課	2
都道府県医師会	3
郡市区医師会	4
保育園・小学校	5
ファミリー・サポート・センター	6
その他（具体的に)	7

Ⅲ 会員・活動件数について（本部・支部・再委託先の合計をご記入ください）

問4 会員数・年齢・有資格者の人数についてお伺いします。

(1) 会員数を委託を受けた年度からご記入ください。

	平成17年度	平成18年度	平成19年6月末現在
利用会員	人	人	人
スタッフ会員	人	人	人
両方会員	人	人	人
合 計	人	人	人

(2) 会員の年齢をご記入ください。（19年6月末の人数に合わせてください。）

	30歳未満	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合 計
利用会員	人	人	人	人	人	人
スタッフ会員	人	人	人	人	人	人
両方会員	人	人	人	人	人	人
合 計	人	人	人	人	人	人

(3) スタッフ会員の中に看護師・保健師、保育士・幼稚園教諭は何人いますか。

看護師・保健師	人
保育士・幼稚園教諭	人

問5 活動件数・事務所開設時間外の依頼・17：00以降、土日等の活動についてお伺いします。

(1) 活動件数を委託を受けた年度からご記入ください。0の場合は0とご記入ください。

	17年度末	18年度末
病児・病後児の預かり	件	件
宿泊を伴う預かり	件	件
緊急度の高い保育所等への送迎や預かり	件	件
その他	件	件
合計	件	件

(2) 4月～6月までの活動件数と（ ）内にはその援助の依頼が事務所開設時間外の依頼である場合の活動件数をご記入ください。0の場合には0とご記入ください。

		19年6月30日現在	
		4～6月までの活動件数（うち時間外の活動件数）	
病児・病後児の預かり		件（	件）
宿泊を伴う預かり		件（	件）
緊急度の高い保育所等への送迎や預かり		件（	件）
その他		件（	件）
合計		件（	件）

(3) 4月～6月までの活動で17：00以降の活動はありますか。

例：15：30～18：30までの預かりは、「あり」とお答えください。また、時間は19：00までとお答えください。

あり	<input type="text" value="1"/>	→ 何時までですか。件数をご記入ください。0の場合は0とご記入ください。
なし	<input type="text" value="2"/>	

18：00までの間	件
19：00までの間	件
20：00までの間	件
21：00までの間	件
21：00以降	件

(4) 4月～6月までの活動で土・日・祝日の援助はありますか。

あり	<input type="text" value="1"/>	→ それは何件ですか。
なし	<input type="text" value="2"/>	

件

IV スタッフ会員の研修について

問6 実施場所、本部で実施する研修時間、回数、受講者数と登録者数、義務づけについてお伺いします。

(1) 都道府県内の研修は本部、再委託先どちらで実施していますか。

本部のみで実施	<input type="text" value="1"/>
再委託先のみで実施	<input type="text" value="2"/>
本部・再委託先で実施	<input type="text" value="3"/>

以下 (2) ～ (5) は本部の研修についてお答えください。

(2) スタッフ会員として活動できるための研修時間は何時間ですか。

時間	→ それを何回しましたか。
----	---------------

↓

(3) 研修会の回数をご記入ください。委託を受けた年度からご記入ください。

	平成17年度	18年度	19年4～6月30日
回数	回	回	回

(4) 研修を受けた受講者数と登録者数をご記入ください。

	平成17年度				
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
受講者数					
登録者数					

	平成18年度				
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
受講者数					
登録者数					

	平成19年度		
	1回目	2回目	3回目
受講者数			
登録者数			

(5) 看護師・保育士もその研修は必ず受講するように義務づけしていますか。

義務づけしている	1
義務づけしていない	2

V マッチングについて

問7 マッチングはどこでしていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

本部のみで実施している	1
支部のみで実施している	2
再委託先のみで実施している	3
本部・支部で実施している	4
本部・再委託先で実施している	5
支部・再委託先で実施している	6
本部・支部・再委託先で実施している	7

問8 会員登録及びマッチングをしている本部のみお答えください。していない場合は問10へお進みください。

事務所開設曜日、時間、開設時間外の対応、マッチングの方法についてお伺いします。

(1) 開設曜日に○をつけ、その時間を記入してください。

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間	午前	時	分	～	午後	時	分
曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間	午前	時	分	～	午後	時	分

(2) 上記の開設時間外の対応はしていますか。

対応はしている	1	→ どのようにしていますか。
対応はしていない	2	



転送電話でアドバイザー・コーディネーターの携帯電話につながる	1
会員のみアドバイザー・コーディネーターの携帯電話の番号を教えている	2
会員間で対応できるものはしている	3
その他（できるだけくわしくご記入ください） .	4

(3) 利用会員の依頼に対してどのように実施していますか。

依頼のつどアドバイザー等が依頼内容を聞き取りスタッフ会員を紹介する	1
依頼があると、アドバイザー・コーディネーターはあらかじめ事前打ち合わせをすませているスタッフ会員に連絡する。	2
利用会員は援助を求めたい時、あらかじめ事前打ち合わせをしているスタッフ会員に直接連絡し、活動が決まってから会員から団体へ報告する。	3
その他（できるだけくわしくご記入ください）	4

VI 規定について

問 9 援助対象年齢、活動報酬についてお伺いします。

(1) 援助対象年齢は定めていますか。

定めている	1	→ その年齢
定めていない	2	

ヶ月・	歳	～	歳
-----	---	---	---

(2) 病児・病後児の預かりの報酬について

	活動時間帯	報 酬
平 日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円
土 曜 日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円
日 ・ 祝 日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円

(3) その他の援助の報酬について

	活動時間帯	報 酬
平日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円
土曜日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円
日・祝日	時間内 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	時間外 (時 分 ~ 時 分)	1時間 円
	宿泊	円

Ⅶ 緊急サポートネットワーク事業の自己評価、よかったこと、困ったこと、今後の課題について

問10 利用会員、スタッフ会員の確保、研修会、ネットワーク会議についてよくできていますか。それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

	できている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	できていない
利用会員の確保について	1	2	3	4
スタッフ会員の確保について	1	2	3	4
研修会の開催について	1	2	3	4
アドバイザー・コーディネーターの連携	1	2	3	4
ネットワーク会議の開催	1	2	3	4

問11 緊急サポートネットワーク事業を進めていく中でよかったこと、困ったこと、課題をご記入ください。

よかったこと
困ったこと
課題

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、7月31日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

*この調査票の他に同封していますスタッフ会員調査票、利用会員調査票を何名の方にお渡ししていただきましたか。

スタッフ会員	名
利用会員	名

平成19年度緊急サポートネットワーク事業活動状況調査

スタッフ会員調査

財団法人女性労働協会

この調査は「緊急サポートネットワーク事業」の活動状況を調査するもので、ご回答いただいた内容については秘密を守り、他の目的に用いることはありませんので、ありのままお答えください。

記入にあたってのお願い

- ・調査時期 特にことわりのない限り、平成19年6月30日現在の状況についてお答えください。
 - ・記入方法 原則として該当する番号1つに○をつけてください。ただし別に指示がある場合はその指示に従ってご回答ください。
 - ・返送方法 ご記入後の調査票は返信用封筒に入れ、7月31日までに(財)女性労働協会へご返送ください。
- ※問い合わせ先 この調査についてご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420
(財)女性労働協会 担当 辻村
e-mail : hontai@jaaww.or.jp

I あなたのことについてお伺いします。

問1 性別

女性	男性
1	2

問2 年齢

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
1	2	3	4	5	6

問3 同居しているご家族についてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

配偶者	1
配偶者の親、あなたの親	2
子ども	3
同居している家族はいない	4
その他 ()	5

→ その子の年齢についてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	2	3
就学前	小学生	中学生以上

問 4 スタッフ会員としての援助活動以外の仕事の有無

あり	1
なし	2

→その仕事は週何時間ぐらいですか。

10時間まで	1
10時間以上～20時間未満	2
20時間以上～30時間未満	3
30時間以上～40時間未満	4
40時間以上	5

II 緊急サポートネットワーク事業についてお伺いします。

問 5 緊急サポートネットワーク事業を最初に知ったのは以下のどれですか。

ポスター・チラシ	1
テレビ・新聞・雑誌	2
友人・知人の口コミ	3
ファミリー・サポート・センター	4
その他（具体的に)	5

問 6 スタッフ会員になった理由について、最も当てはまる番号1つに○をつけてください。

持っている資格を生かしたいため	1
働いている親への援助をしたかったから	2
収入になるため	3
社会参加したかったから	4
育児の経験を生かすことができる	5
その他（具体的に)	6

問 7 会員になってどのぐらいですか。あてはまる番号に○をつけてください。

3ヶ月以内	1
3ヶ月以上～6ヶ月以内	2
6ヶ月以上～1年以内	3
1年以上～1年6ヶ月以内	4
1年6ヶ月以上	5

問 8 会員になってからどのような援助をしましたか。援助した内容に回数をご記入ください。またその内、土・日・祝日に援助した回数を () 内にご記入ください。

	援助した回数 (うち土・日・祝日の回数)
①病児・病後児の預かり	回 () 回
②宿泊を伴う預かり	回 () 回
③緊急時の保育所等への送迎や預かり	回 () 回
④その他 (具体的に)	回 () 回
合 計	回 () 回

問9 問8の援助で17時以降も続けて援助をしたことがありますか（宿泊除く）。

ある場合にはその時間帯の回数をご記入ください。

例：15：30～18：30までの預かりは「ある」に○をし、時間は「19：00」に回数をご記入ください。

ある	1	→	①18：00まで	回
ない	2		②19：00まで	回
			③20：00まで	回
			④21：00まで	回
			⑤21：00以降	回

問10 問8で病児・病後児の預かりが1回以上あった方のみお答えください。それ以外の方は問11へお進みください。

・病児・病後児の預かりはどのように活動しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもをあなたの自宅で預かった	1
保護者が医療機関に受診したことを確認し、子どもを利用会員宅で預かった	2
あなたが医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	3
あなたが医療機関に連れて行き受診後、利用会員宅で預かった	4
あなたが医療機関に連れて行き受診後、病児保育施設へ連れて行った	5
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、あなたの自宅で預かった	6
あなたが保育園・小学校等へ迎えに行き、医療機関に連れて行き受診後、利用会員宅で預かった	7
その他（具体的に ）	8

問11 緊急サポートネットワーク事業の活動をしていて良いと思うことについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

利用会員に感謝され、やりがいを感じる	1
研修で育児に関する知識や技術を身につけることができる	2
研修で子どもの病気についての知識を身につけることができる	3
育児の経験を生かすことができる	4
報酬をもらえる	5
援助している子どもとのふれあいが楽しい	6
その他（具体的に ）	7
特に良いと思うことはない	8

問12 緊急サポートネットワーク事業の活動をしていて困っていることについて、次の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

依頼が少ない	1
病気の子どもを預かるので不安がある	2
子どもがなつかない	3
利用会員に信頼されていない気がする	4
講習内容が充分でなく、援助活動をするのに不安である	5
報酬が少ない	6
アドバイザー・コーディネーターに相談しづらい	7
アドバイザー・コーディネーターからの話しと利用会員の依頼に食い違いがある	8
その他（具体的に)	9
特に困っていることはない	10

問13 緊急サポートネットワークの活動に満足していますか。

大いに満足	1
満足	2
少し不満	3
不満	4

あなたのお住まいの都道府県をご記入ください。

緊急サポートネットワーク事業についてよかったこと、困ったこと、感想がございましたらご記入ください。

よかったこと
困ったこと
感想

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、7月31日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

平成19年度緊急サポートネットワーク事業活動状況調査

利用会員調査

財団法人女性労働協会

この調査は「緊急サポートネットワーク事業」の活動状況を調査するもので、ご回答いただいた内容については秘密を守り、他の目的に用いることはありませんので、ありのままお答えください。

記入にあたってのお願い

- ・ 調査時期 特にとわりのない限り、平成19年6月30日現在の状況についてお答えください。
 - ・ 記入方法 原則として該当する番号1つに○をつけてください。ただし別に指示がある場合はその指示に従ってご回答ください。
 - ・ 返送方法 ご記入後の調査票は返信用封筒に入れ、7月31日までに（財）女性労働協会へご返送ください。
- ※ 問い合わせ先 この調査についてご質問がありましたら、下記へお問い合わせください。

TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420
（財）女性労働協会 担当 辻村
e-mail : hontai@jaaww.or.jp

I あなたのことについてお伺いします。

問1 性別

女性	男性
1	2

問2 年齢

20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上
1	2	3	4	5	6	7

問3 仕事の形態、勤務形態、早出、残業、土日の出勤についてお伺いします。

(1) 仕事の形態

フルタイムで勤務している	1	→ 次の(2)へお進みください。
パートタイムで勤務している	2	
自営業	3	→ 問4へお進みください。
その他(具体的に)	4	

(2) 勤務形態についてお伺いします。

日中の通常勤務	1
早朝のみ又は早朝を含んだ勤務	2
深夜のみ又は深夜を含んだ勤務	3
交替制勤務（早朝・深夜勤務あり）	4
交替制勤務（早朝・深夜勤務なし）	5
その他（具体的に)	6

→ (3) (4) へ

*早朝：午前5時～8時、
深夜：午後10時～午前5時の勤務をいう

(3) 早出や残業などがありますか。

(4) 土、日、祝祭日の出勤はありますか。

ほとんどない	1
月に3～4回程度	2
月に10回程度	3
月に15回以上	4

ほとんどない	1
月に1～2回程度	2
月に3～4回程度	3
月に5～6回程度	4
7回以上	5

問 4 同居している家族についてお伺いします。あてはまるすべてに○をつけてください。

配偶者	1
子ども	2
あなたの親・配偶者の親	3
その他	4

問 5 同居している子どもについてお伺いします。

(1) 子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

(2) 子どもの年齢。当てはまる番号すべてに○をつけてください。合計が(1)の子どもの数と一致するよう人数をお書きください。

就学前	小学生	中学生以上
1	2	3
人	人	人

(3) 緊急サポートネットワーク事業に登録している子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上
1	2	3	4	5

(4) 緊急サポートネットワーク事業に登録している子どもの年齢。当てはまるすべてに○をつけてください。合計が(3)の子どもの数と一致するようお書きください。

0歳	1歳～3歳	4歳～就学前	小学校低学年	小学校高学年	中学生以上
1	2	3	4	5	6
人	人	人	人	人	人

問6 同居の家族以外に緊急時の預かりを頼める人はいますか。

いる	1	→それはどなたですか。
いない	2	

あなたの親・配偶者の親	1
親戚	2
友人・知人・近所の人など上記1・2以外の人	3

問7 緊急サポートネットワーク事業以外に緊急時の預かりのため登録しているところがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

ある	1	→それはどこですか。
ない	2	

ファミリー・サポート・センター	1
病児保育施設	2
民間のベビーシッター	3
その他（具体的に)	4

II 緊急サポートネットワーク事業についてお伺いします。

問8 緊急サポートネットワーク事業を最初に知ったのは以下のどれですか。

ポスター・チラシ	1
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2
友人・知人の口コミ	3
その他（具体的に)	4

問9 利用会員になってどのくらいですか。

3ヶ月以内	1
3ヶ月以上～6ヶ月以内	2
6ヶ月以上～1年以内	3
1年以上～1年6ヶ月以内	4
1年6ヶ月以上	5

問10 会員になってからどのような援助を受けましたか。援助を受けた内容に回数をご記入ください。またその内土・日・祝日に援助を受けた回数を（ ）内にご記入ください。

	援助を受けた回数（うち土・日・祝日の回数）
①病児・病後児の預かり	回（ ）回
②宿泊を伴う預かり	回（ ）回
③緊急時の保育所等への送迎や預かり	回（ ）回
④その他	回（ ）回
合 計	回（ ）回

問11 問10の援助の中で17時以降も続けて援助を受けたことがありますか。（宿泊除く）ある場合には①～⑤の時間帯に回数をご記入ください。

例：15：30～18：30までの預かりは「ある」に○をし、時間は「19：00」に回数をご記入ください。

ある	1	→	①18：00まで	回
ない	2		②19：00まで	回
			③20：00まで	回
			④21：00まで	回
			⑤21：00以降	回

問12 会員になってから事務所の開設時間外に援助の依頼をしたことがありますか。

あり	1	→ 何回ありましたか。
なし	2	

回

↓

それは対応してもらえましたか。

すべて対応してもらった	1
断られたこともある	2
すべて断られた	3

問13 会員になって援助の依頼をキャンセルしたことがありますか。

あり	1	→ その理由。（あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。）
ない	2	

子どもの具合がよくなったため	1
出張が取りやめになったため	2
残業がなくなったため	3
他に見てくれる人が見つかったため	4
その他（具体的に ）	5

問14 会員になって援助を依頼して断られたことがありますか。

ある	1	→ 何回断られましたか。
ない	2	

何回断られましたか。

回

その時どうしましたか（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

自分が仕事を休んだ	1
同居の家族に頼んだ	2
別居の親族に頼んだ	3
ベビーシッター等に頼んだ	4
その他（具体的に	5

問15 緊急サポートネットワーク事業に登録して良いと思うことについて当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子どもが病気になっても援助してくれるところがあると思うと安心できる	1
安い料金で子どもを預かってくれる	2
急な依頼にも対応してもらえる	3
出張になっても安心である	4
スタッフ会員は研修を受けているので安心できる	5
アドバイザー・コーディネーターの対応が良い	6
その他（具体的に	7
・	
良いと思うことは特にない	8

問16 緊急サポートネットワーク事業で困っていることについて、つぎのあてはまる番号すべてに○をつけてください。

スタッフ会員の資質が同じでなく預けるのに不安がある	1
依頼をしても断られる場合がある	2
利用料が高い	3
アドバイザー・コーディネーターの対応が悪い	4
その他（具体的に	5
・	
・	
困っていることはない	6

問17 あなたは緊急サポートネットワークの活動に満足していますか。

大いに満足	1
満足	2
少し不満	3
不満	4

あなたが住んでいる都道府県をご記入ください。

緊急サポートネットワーク事業についてよかったこと、困ったこと、感想がございましたらご記入ください。

よかったこと

困ったこと

感想

ご協力ありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて、7月31日までに（財）女性労働協会へご返送ください。

平成19年度緊急サポートネットワーク事業 活動状況調査結果報告書

平成20年2月

発行 財団法人 女性労働協会
住所 〒107-0073 東京都港区三田3-5-21
三田北島ビル4階
TEL 03-3456-4410 FAX 03-3456-4420

印刷・製本 株式会社ヂヤンテイシステムサービス